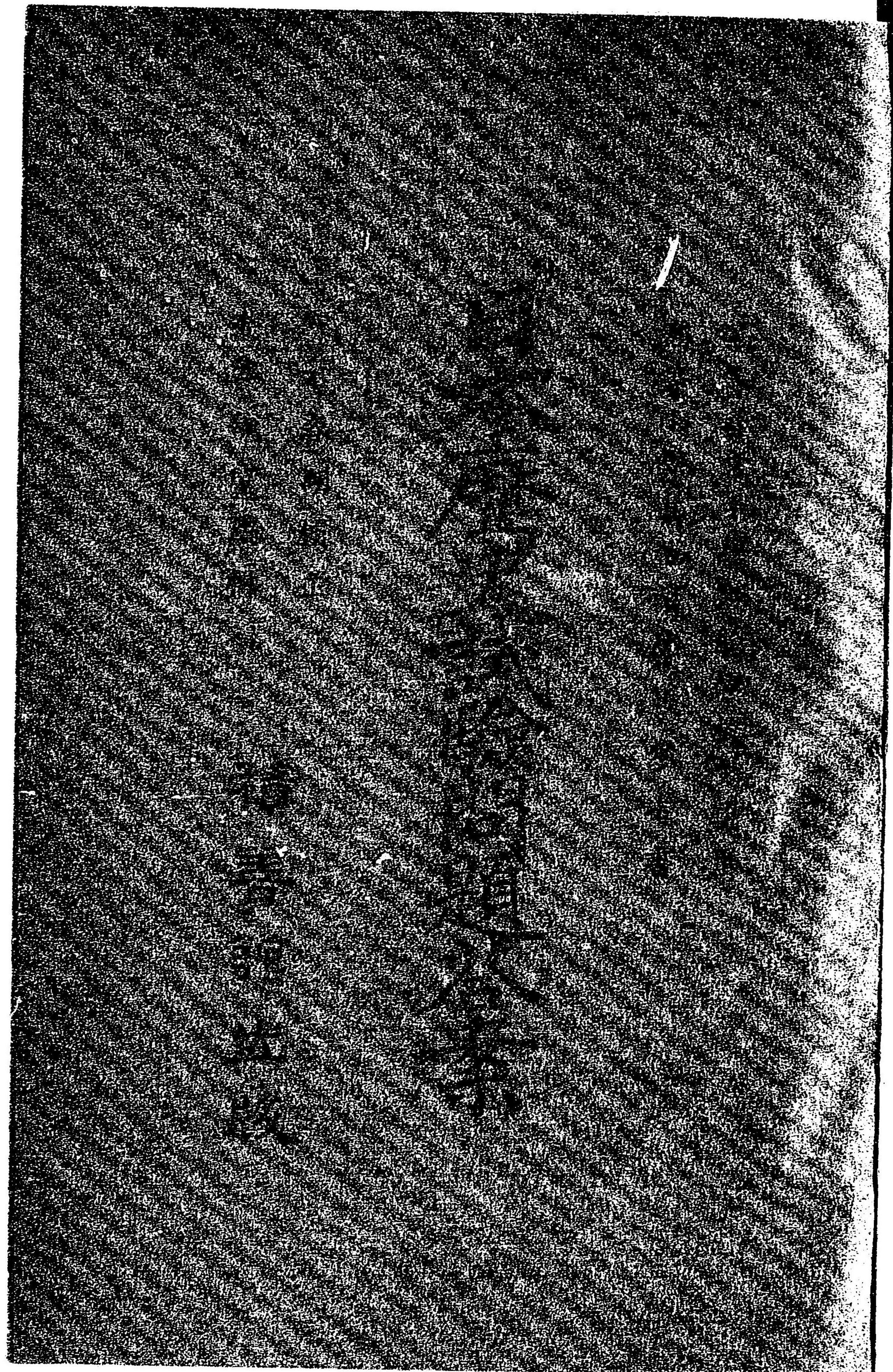


高等尋常中學校師範學校受驗用
高等小學其他諸學校參考書

日本歷史試驗問題答案

鈴木春湖校正
松本謙堂編輯

積善館出版



第20
307

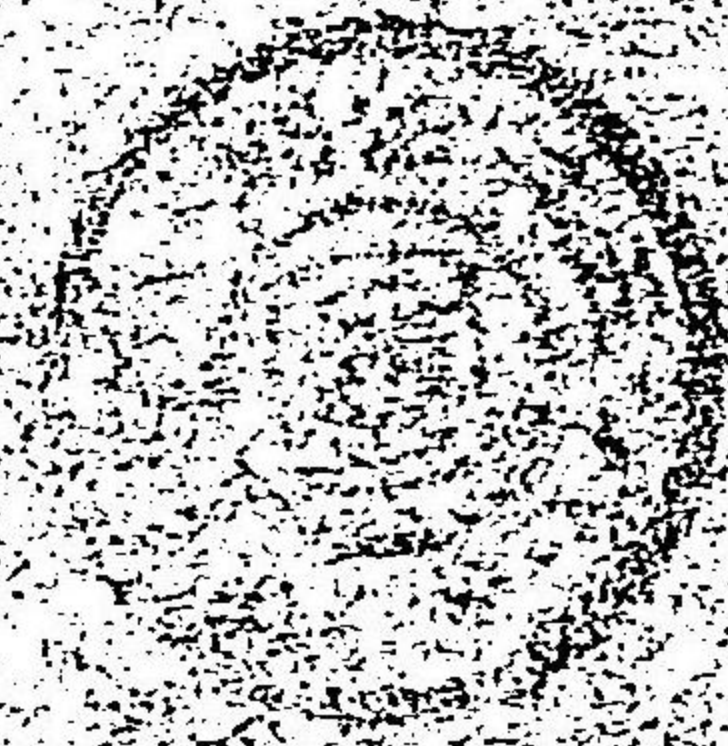


高等尋常中學師範學校受驗用
高等小學其他諸學校參考書

日本歷史試驗問題答案

鈴木春湖校正
松本齋堂編輯

積善館出版



凡 例

一此書ハ何レノ學校ヲ問ハズ一般受験者ニ便センガ爲メ重要ナル問題及ヒ從來諸學校ニ於テ示セル所ノ例題ヲ蒐メ精確醇正ナル歴史ニ據テ之ニ適當ノ答案ヲ附シ且學科課程及ヒ受験時間ニ配シテ編セシモノナリ

一此書首篇ニハ歴史學、地理、版圖、言語、文字等ノ問題及ヒ答案ヲ掲ケ而シテ上古、中古、近古、近世、今世ノ五篇ニ分チ以テ紀元前ヨリ明治昭代ニ至ルマデノ大勢ヲ明カニシタルモノニシテ壹ニ答案ニ適スルノミナラス一ノ小歴史トシテ見ルモ亦可ナリ

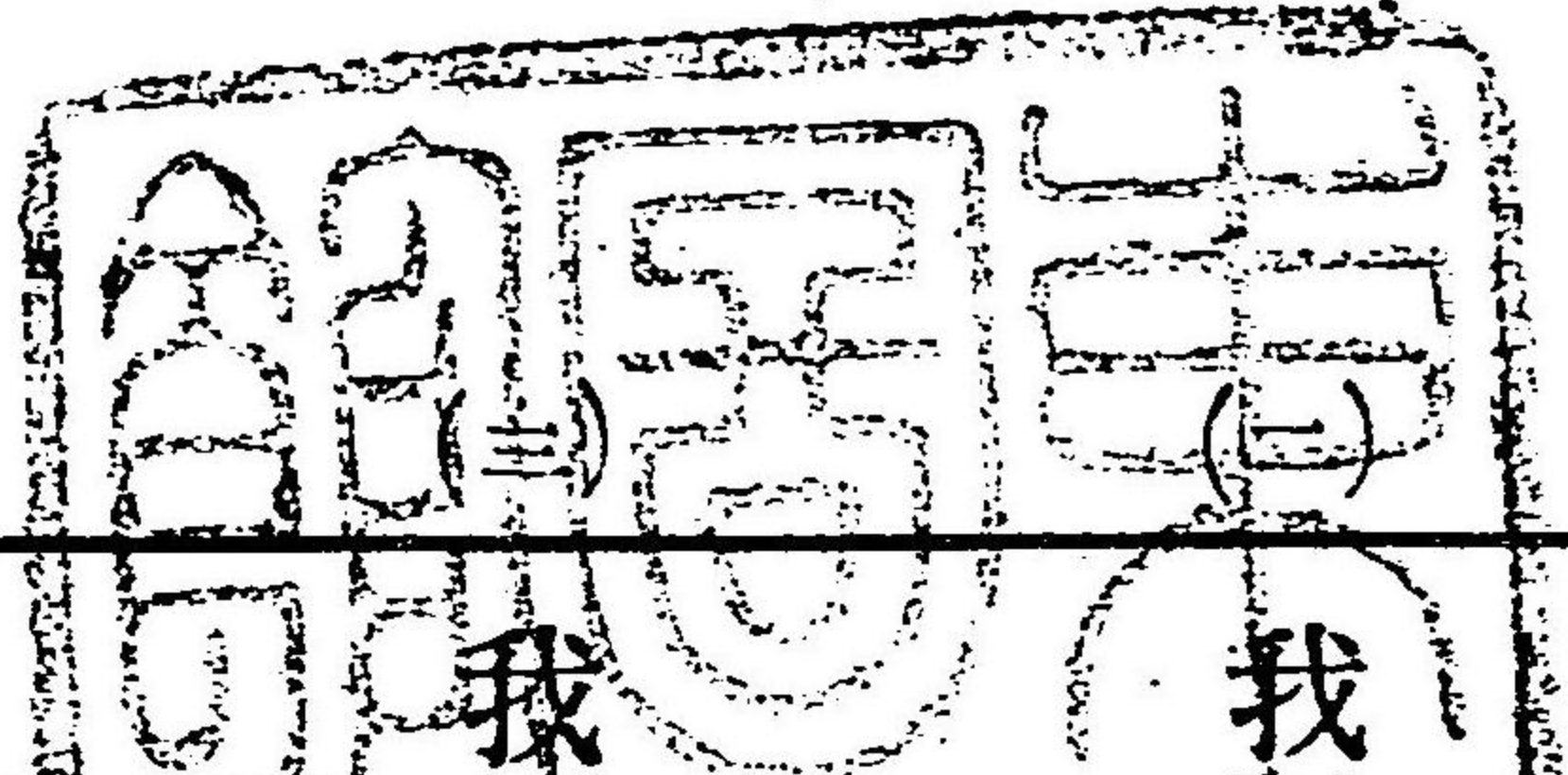
一此書ハ時勢ノ變遷沿革等歷史上ノ重事ト認ムルモノヲ
 擧クルノミナラス務メテ其原因結果ヲ標示シ且本文中
 原因ノ伏スル所、結果ノ顯ハル、所ニハ悉ク圈點ヲ附
 シ以テ研究ノ便ニ供セリ
 一本書ハ一問題ゴトニ一答案ヲ附シ且又一答案ニ冠スル
 二數問題ヲ以テシタレバ直チニ取テ數答案ト爲スヲ得
 ベシ
 一卷末ニハ答案ニ必要ナル事項ヲ附録シ以テ備考トス

明治二十五年六月下浣 編者 識

日本歴史試験問題答案目次

● 首篇

(一) 歴史トハ如何ナル學ナルヤ……………	一	頁
歴史ノ學法如何		
我國地理ノ大勢ヲ述ブベシ……………	一	頁
日本國ノ位置ノ問フ		
諸島ノ位置、寒暖、人口、民ノ開化如何		
我國ノ版圖及ニ言語文字ノ概略ヲ語レ……………	二	頁
版圖擴充ノ方向ヲ示セ		
昔時本邦東北ノ地方ハ如何		
昔時本邦西南ノ地方ハ如何		
坂上田村麻呂東征以後版圖ノ狀況如何		
日本ノ言語、文字ノ概略ヲ述ヘヨ		



● 上古篇

神代ヨリ佛教
傳來ニ至ル

(四) 天地開闢ノ狀況ヨリ天孫降臨ニ至ルマデノ事ヲ述ベヨ三頁

造化ノ主神ヲ示セ

大八洲トハ如何

伊弉諾神ノ御子ハ何レノ神ナルヤ

國土ヲ獻セシハ何レノ命ナルヤ

大神ノ勅語ヲ示セ

天孫降臨ノ有様ヲ問フ

(五) 神武天皇ノ創業ヲ語レ……………四頁

神武帝諸皇族ヲ會シテ議シタマヒシ事ハ何ゾ

神武帝東征ノ有様ヲ語レ

(六) 手研耳命ノ亂ヲ問フ……………六頁

手研耳命ヲ誅セシハ何帝ナルヤ

(七) 七世ノ垂拱トハ如何ナル事ゾ……………全頁

(八) 神器ヲ笠縫ノ邑ニ遷セシハ如何ナル理由カ……………全頁

宇治ノ内宮ニハ如何ナルモノヲ奉祀シテアルヤ

(九) 四道將軍ヲ置キタルハ何レノ朝ナルヤ……………七頁

四道將軍トハ誰々ナルヤ

四道將軍ニハ如何ナル權力ヲ與ヘシヤ

崇神帝ノ心ヲ民事ニ用ヒタマヒシ概畧ヲ述ヘヨ

(一〇) 狹穗彦ノ反トハ如何……………全頁

(二) 兵器ヲ以テ祭幣ト爲セシ濫觴ハ何帝ノ朝ナルヤ……………八頁

太刀一千口ヲ藏スルハ何ノ爲メカ

(三) 殉死ヲ禁セシ事ヲ問フ……………全頁

殉死ニ代フルモノハ何ゾ

(三) 景行帝戎夷ヲ平ゲシ有様如何……………全頁

(四)	日本武尊川上梟師ヲ誅セシ有様ヲ述ベヨ 景行帝蝦夷ヲ征セシ概要ヲ陳ベヨ 武内宿禰東北巡察ノ復命如何 日本武尊東夷ヲ征セシ事ヲ問フ 叢雲ノ劔ヲ草薙ノ劔ト改メシハ何故ゾ 吾孀ト云フ稱呼ノ起原如何 熱田ノ神社ニハ如何ナルモノヲ奉祀シテアルヤ 東山道ニ都督ヲ置キタルハ何ノ爲メナルヤ 成務帝國縣ヲ分チシ有様如何 推古帝ノ朝ニハ幾許ノ國造アリシヤ 大臣、大連ヲ置キシハ何朝ノ時始リシヤ 神功三韓ヲ征セシ顛末ヲ問フ 神功皇后ノ諡旨ハ如何	四 九 九 十 十 十一 十一 全 全	頁 頁 頁 頁 頁 頁 頁 頁 頁 頁
-----	---	---	--

(元)	三韓降服ノ有様ヲ述ベヨ 應仁帝文教ヲ興セシユトヲ問フ 仁德ノ政化ハ如何 仁德帝及ヒ稚郎子皇子讓位ノ事ヲ述ベヨ 仁德帝恭儉ノ德、仁恕ノ政ハ如何	十二 全 全	頁 頁 頁
(二)	履中、允恭、雄略帝ノ三朝ニハ政事上如何ナルコトアリシヤ 史官藏職トハ何ゾ 允恭帝ノ朝姓氏ヲ改正シタルハ如何ナル理由ゾ 雄略帝ニ於ケル農况如何	十三	頁
(三)	佛教傳來ノ有様如何 始メテ佛教ノ流傳セシハ何帝ノ朝ゾ 敏達帝ノ朝佛教ノ有様如何	十四	頁

用明帝ノ朝佛教ノ有様如何
崇峻帝ノ朝佛教ノ有様如何

(三) 厩戸皇子ノ撰セシ憲法トハ如何ナルモノゾ……………十六頁
(四) 上古ノ官制、文學、法律ノ概畧ヲ問フ……………全頁

神武帝ノ朝ニ於ケル官制如何

景行、成務、雄略、崇峻、推古、舒明、皇極帝、數朝ノ官制如何

上古文學ノ有様ヲ語レ

上古ニ於ケル法佛ハ如何

(五) 中古以前日本人ノ食物ハ如何……………十八頁

(六) 上古兵制ノ概畧ヲ示セ……………全頁

垂仁帝ノ朝兵事上如何ナルコトアリシヤ

● 中古篇 大化ヨリ治承ノ難ニ至ル

(七) 年号ノ始、及始テ左右大臣並ニ内臣ヲ置キシハ何レノ

朝ナルヤ……………十九頁

(八) 大化ノ新制トハ如何ナルモノゾ……………全頁

國司郡司ノ制如何

畿内及ヒ郡部ノ區域ハ如何

戶籍計帳、班田收授法ハ如何

田調ハ如何

(九) 中興ノ祖トハ何帝ナルヤ……………二十一頁

中興ノ偉業ヲ翼賛セシハ誰ナルヤ

(一〇) 本邦活字ノ起原ハ何レノ朝ナルヤ……………全頁

(一一) 道鏡ノ亂トハ如何……………全頁

清麻呂ノ忠烈ヲ述ベヨ

道鏡ノ處分ハ如何ナリシヤ

(一二) 桓武帝遷都ノ概畧ヲ問フ……………二十二頁

(三)	桓武帝ノ朝、大内造營ノ有様如何……………	二十二頁
(四)	中古ニ於ケル官制及ビ文學ノ大畧ヲ問フ……………	二十三頁
	孝德帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概畧如何	
	天智帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概畧如何	
	文武、文德、清和、宇多、ノ四朝ニ於ケル官制ノ概畧如何	
	天智、持統、文武帝ノ三朝ニ於ケル文字ノ有様如何	
(五)	國史ノ編纂ハ何レノ朝ヨリ始リシヤ……………	二十四頁
	古事記、日本書記等撰著ノコトヲ語レ	
(六)	出羽ノ亂ハ如何……………	全頁
	藤原保則ノ計ハ如何	
(七)	寛平ノ遣誠トハ如何ナルモノゾ……………	二十五頁
(八)	文武帝ノ朝ニ修メシ制度ノ大要ヲ語レ……………	二十六頁
	大寶令トハ何ゾ	

(九)	元明、元正ノ治ハ如何……………	二十七頁
-----	-----------------	------

	出羽、丹後、美作、大隅ノ國ヲ置キシハ何帝ノ朝ナルヤ	
	元正帝ノ詔ハ如何	
	和泉、能登、安房、石城、石背ノ國ヲ置キシハ何帝ノ朝ナルヤ	
	左衽ヲ右衽トセシハ何帝ノ朝ニ始リシヤ	
(一〇)	延喜天曆ノ治蹟ヲ述ベヨ……………	二十八頁
(一一)	菅原道眞ノ太宰府ニ貶セラレタル理由如何……………	二十九頁
	道眞ノ重陽ノ詩ヲ示セ	
(一二)	天慶ノ亂ヲ略述セヨ……………	三十頁
	將門ヲ誅滅セシハ誰ナルヤ	
	純友ハ誰ノ爲メニ誅セラレシヤ	
(一三)	前九年ノ役トハ如何……………	全頁
	賴時、貞任、宗任、ヲ誅セシハ誰ナルヤ	

(四) 後三年ノ役トハ如何……………三十一頁

義家何ニ因テ伏兵ノアルヲ覺リシヤ
武衡、家衡ヲ誅セシハ誰ゾヤ

(五) 保元平治ノ亂ヲ語レ……………三十二頁

保元ノ亂ノ原由如何
諸將ノ去就ヲ述ベヨ
平治ノ亂ノ原由ヲ問フ

(六) 治承ノ難トハ何ゾ……………三十四頁

成親等ノ密議發覺セシハ何ニ因ルカ

● 近古篇 頼朝覇府ヲ開キシヨ
リ關原ノ戰ニ至ル

(七) 頼朝覇府ヲ開キシ有様如何……………三十四頁

頼朝義經、相忌ムノ狀況如何
頼朝ノ政略ハ如何

兵馬ノ權頼朝ニ歸シタルハ何ニ原因スルヤ

(八) 北條氏執權トナリシヨトヲ略叙セヨ……………三十五頁

北條氏ノ執權タリシハ誰ニ始リシヤ
源氏ハ何代ニシテ血統絶ヘシヤ
北條氏篡奪ノ原因如何

(九) 承久ノ變トハ何ゾ……………三十六頁

僧高辨、北條泰時ヲ戒メタルハ如何ナル事ゾ……………三十七頁

(五) 兩統迭立ノ議ヲ定ムトハ何ゾ……………全頁

元寇ノ變ヲ語レ……………全頁

北條時宗、元使ニ對シ如何ナル處置ヲ施セシヤ

弘安三年元寇大敗ノ有様ヲ語レ

(五) 元弘ノ中興トハ如何……………三十八頁

高時ヲ誅セルハ誰ナルヤ

(五) 楠正成死ヲ決セシ原因如何……………三十九頁

(五) 四條畷ノ戦ヲ語レ……………四十頁

正行吉野ノ行宮ニ詣リ如何ナルコトヲ奏セシヤ

(五) 六分一氏トハ如何ナルコトゾ……………四十一頁

(五) 室町執權ノ時如何ナル事アリシヤ……………全頁

應永ノ亂ハ如何

嘉吉ノ亂ヲ語レ

應仁ノ亂ヲ問フ

應仁ノ役京師ハ如何ナル慘害ヲ受シヤ

(五) 足利學校ノ由來ヲ問フ……………四十三頁

足利學校ノ所在ヲ問フ

永享年間、足利學校ヲ中興シタルモノハ誰カ

徳川時代足利學校ノ有様如何

明治維新足利學校ノ有様如何

足利學校ニ藏スル古書中如何ナルモノアリヤ

(五) 武臣割據ノ有様如何……………四十四頁

北條長氏關東ヲ畧セシ有様如何

信玄、謙信ノ構兵如何

毛利元就、陶晴賢ヲ誅セシ有様ヲ問フ

桶峽ノ戦ハ如何

川中島ノ戦ヲ語レ

(六) 諸國ニ割據セシ群雄ノ重ナル者ハ誰々ナルヤ……………四十六頁

(六) 織田信長、京畿ヲ鎮定セシ大畧ヲ問フ……………四十七頁

(六) 聚樂第ノ盟トハ如何ナルモノゾ……………全頁

聚樂第行幸ノ鹵簿何如

(六) 豊臣秀吉、明ノ冊書ヲ裂キシハ如何ナル理由ゾ……………四十八頁

(四) 小西行長ハ僧承兌ニ如何ナルコトヲ囑セシヤ
關原ノ戰ハ如何……………四十八頁

德川家康聽政ノ有様ヲ略叙セヨ

(空) 豐公時代ノ牢獄ハ今ニ存セシモノアリヤ……………四十九頁

(突) 將軍紹襲ノ有様ヲ問フ……………五十頁

源氏將軍ハ如何

攝家將軍ハ如何

親王將軍ハ如何

又親王將軍ハ如何

足利氏將軍ハ如何

織田氏ハ如何

豐臣氏ハ如何

●近世篇

家康覇業ヲ定メシヨリ
慶康ノ大政奉還ニ至ル

(七) 德川氏ノ覇業ヲ問フ……………五十一頁

家康 三成ヲ誅セシ以後如何ナル政略ヲ施セシヤ

家康ノ人ト爲リハ如何

(六) 德川家康ノ耶蘇教ヲ嚴禁セシ所以ヲ問フ……………五十二頁

島原ノ亂ハ如何……………五十三頁

前二軍ヲ督セシハ誰レガ

後二軍ヲ督セシハ誰レガ

(五) 慶安ノ變トハ何ゾ……………五十三頁

(四) 德川家光ノ人ト爲リヲ問フ……………五十四頁

家光ノ膽畧如何

(三) 德川吉宗ノ中興ヲ語レ……………全 頁

吉宗ノ施政如何

吉宗ハ如何ナル人ニ治道ヲ問ヒシヤ

此時學者ノ出シハ誰々ナルヤ
新井白石ハ如何ナル書ヲ著ハセシヤ
我國洋書ヲ始テ讀ミシ者ハ誰カ

(七)

德川氏諸侯ヲ封建シタル有様如何……………五十九頁

(八)

德川氏時代ノ三家トハ何レヲ指スヤ又舊諸侯又ビ家

臣ノ大ナル者ヲ擧ケヨ……………五十六頁

(九)

外交ノ狀況ヲ畧叙セヨ……………全頁

弘化年代ニ來リシハ何レノ國ナルヤ

嘉永年代ニ來リシハ何レノ國ナルヤ

安政年代ニ來リシハ何レノ國ナルヤ

外國ニ關スル勅語ヲ示セ

萬延年代外交ノ有様ハ如何

(十)

安政ノ獄トハ何ゾ……………五十七頁

(十一)

櫻田、阪下ノ變トハ何ゾ……………五十八頁

井伊直弼ヲ要殺セシ有様如何

(十二)

長藩、幕府ト隙ヲ生セシ原因如何……………五十九頁

(十三)

近世將軍ノ紹襲ヲ問フ……………全頁

德川氏將軍ハ如何

● 今世篇 大政維新ヨリ帝國議會ノ開設ニ至ル

(十四)

大政維新トハ何ゾ……………五十九頁

幕府大政ヲ奉還セシ狀況如何

源賴朝以來何年ニシテ王政ニ復セシヤ

官制ノ更革如何

(十五)

五事ノ誓言トハ何ゾ……………六十頁

(十六)

王師東征ノ事ヲ略述セヨ……………六十一頁

慶喜、容保等如何ナルコトヲ議セシヤ

(三) 慶喜等ノ處分ハ如何
軍艦ヲ率キテ箱館ニ據リシハ誰カ
廢藩置縣ノ事ヲ問フ……………六十二頁

(四) 全ク郡縣トナリシハ明治何年ナルヤ
左ノ事業ハ明治何年ニ始リシヤ……………全頁

(一) 新楮幣ノ製造

(二) 新聞紙ノ發行

(三) 造幣局ノ設置

(四) 燈臺ノ設置

(五) 電信線ノ架設

(六) 郵便法ノ制定

(七) 鐵道ノ布設

(八) 國立銀行ノ創設

(九) 大陽曆ノ頒行

(十) 博物館ノ設置

(五) 五爵ヲ制スルトハ如何ナルコトゾ……………六十四頁

叙爵ノ人員ハ如何

其夫人ノ禮遇ハ如何

(六) 臺灣ノ役ハ如何……………全頁

臺灣征討ノ有様如何

(七) 朝鮮ノ變ハ前後幾回アリシヤ……………六十五頁

朝鮮ノ第一變ハ如何

朝鮮ノ第二變ハ如何

朝鮮ノ第三變ハ如何

(八) 西南ノ亂ヲ語レ……………六十七頁

西南ノ亂ハ何ケ月ヲ經テ平ギシヤ

(九) 明治十八年官制改革ノ概略ヲ述ベヨ……………全頁

(十) 明治昭代ノ衣食住ハ如何……………全頁

(十一) 我國開闢以來未曾有ノ盛典トハ何ゾ……………六十八頁

憲法發布ノ事ヲ述ベヨ

大赦ノ恩命ヲ被ムリシ犯人ノ種類ハ如何

贈位ニ爲リシ者ハ誰々ナルヤ

(三)

教育勅語ハ明治何年ニ下シタマヒシヤ……………六十九頁

謹テ教育勅語ヲ捧讀セヨ

(三)

始メテ帝國議會ヲ開キシハ明治何年ナリシヤ……………七十頁

帝國議會開院式ハ如何

○附 錄

○備 考

○神武帝ノ甲寅戊午ノ歲

○紀元

○豐受大神

○周芳、豐前ノ賊名景行帝ノ朝

○日高見國

○大寶ト改元セシ原因

○伊治城

○五十二年間海内無事淳和帝ヨリ清和帝ニ至ル

○將門

○國記

○三善清行革命ノ議

○清行、道眞ニ貽ル書

○清行ノ封事

○菅原文時ノ封事

○古事記、日本書記

○度量衡

○肅慎、靺鞨

○渤海

- 大江廣元ノ議
- 土居、得能ノ名
- 兒島高德
- 上宮太子ノ識文
- 盤谷高貞、後醍醐帝ニ獻セシ駿馬
- 豊臣秀吉征韓ノ決心
- 藤原肅
- 徳川氏、大藩ノ待遇
- 松平定信
- 高山正之
- 林子平
- 徳川光國ノ修史
- 大石義雄等ノ處分

- 公使ヲ國外ニ遣ルノ始メ
- 七卿
- 水戸ノ二党
- 王師東征ノ際ノ大總督以下諸將
- 戊辰ノ後東國諸藩ノ去就
- 維新以後家祿ノ制定
- 佐賀ノ二黨
- 廢藩置縣後ノ地租改正

目次畢

日本歴史試験問題答案

謙堂居士 松本仁吉 編

○首篇

(一) 歴史トハ如何ナル學ナルヤ

史トハ人間世上ニ起リシ種々ナル事物ノ變遷ヲ記スモノナリ、凡ソ開闢ヨリ今日ニ至ルマテ數千年ノ間、人間世界ニ現レシ人民ノ智識開進ノ進否、政事教化ノ善惡、治亂盛衰ノ始終、風俗ノ變遷等ヲ熟知シ以テ既往ヲ鑑ミ將來ヲ察スベシ、是レ史ヲ學ブノ本旨ナリ、凡テ歴史ヲ學ブニハ、結果ヲ見テ原因ヲ繹子、原因ヲ見テ結果ヲ察スルコト尤モ肝要ナリ、

(二) 我國地理ノ大勢ヲ述フベシ

我日本國ハ東半球ナル亞細亞洲ノ東海中ニ在ル島國ナリ、諸島ノ中ニテ中州最モ大ニシテ、西南ニ四國九州ノ二大島アリ、東北ハ北海道ト云ヘル大島アリ、(此北海道トハ千

歴史ヲ學
ブノ法如
何

日本國ノ
位置ヲ問
フ

諸島ノ位置、寒暖、人口、開化ハ如何

(三)

版圖擴充ノ方向ヲ示セ

昔時本邦東北ノ地如何

昔時本邦西南ノ地如何

坂上田村麻呂東征以後版圖如何

日本ノ言語文字ノ概略ヲ述ヘヨ

造化ノ主神ヲ示セ
大八洲トハ如何

島ヲ除キテ云ヒシナリ)其他周圍ニ數多ノ島嶼アリテ以テ邦國ヲ成ス、諸島ノ位置ハ東北ヨリ延ビテ西南ニ連リ、東北ノ地寒クシテ人口少ク、西南ノ地暖ニシテ人口稠シ、民ノ開化ハ西南ヨリ漸次東北ニ及ベリ、

我國ノ版圖及ビ言語文字ノ概畧ヲ語レ

我國ノ開化ハ、古來西南ヨリ東北ニ及ボセシトハ、前既ニ述ベシガ如クニシテ、其版圖モ亦タ漸次ニ東方ニ擴充セリ、今チ距ル三千年以前ニ在テハ、九州及ヒ山陰山陽ノ西邊ノミチ領セシガ、神武天皇ニ至リ、初メテ中原ヲ平定シタマヒ、爾來次第ニ東方ニ及ボスト雖モ、函嶺以東ハ尙ホ久シク、漠然トシテ知ル能ハズ、蓋シ本邦ノ東北ハ、往時渾テ蝦夷ノ巢窟ニシテ、其初チ詳カニセズト雖モ、千七百六十年前、景行天皇ノ朝、己ニ東邊ヲ侵セシコトアリ、日本武尊東征アリテ、相摸ヨリ上總ニ至リ、始メテ陸奥ノ邊マデ既涉シタマヘリ、津輕、鰺田、越國等ノ稱呼ハ、元蝦夷ノ部落ノ名稱ニシ、尙ホ久シク其最遠ナルモノト傳稱セルノミナリシガ、西南ニ於テハ、既ニ屢々支那朝鮮等ト相往來セリ、天平寶字六年ニ至リ、藤原朝舊今ノ陸中宮城郡ニ於テ、碑石ヲ鎮守府ノ門ニ建テ、諸方ノ道程ヲ錄シ、蝦夷ノ國境ヲ距ル百二十里ト書セシハ、方今ノ二十里ニシテ、當時版

圖ノ概略ヲ知ルベシ、其後蝦夷入寇シテ、函嶺ヲ越エ、屢々駿遠ノ地方ヲ侵シ、千六七十年以前、坂上田村麻呂東征シテ、南部津輕ノ邊マデヲ服從セシム、此ニ至テ、本邦ノ版圖、始メテ東北ノ海濱ニ達ス、其後六百餘年ヲ經テ、武田信廣、海峽ヲ渡リ地ヲ略シテ、子孫其地ニ據守ス、即チ今ノ松前はレナリ、爾來境域擴マリ蝦夷全島ヨリシテ、許多ノ屬島ニ跨リ、悉ク本邦ノ版圖ニ歸セリ、

言語ハ日本固有ノ語ニシテ、他邦ト同ジカラズ、元來泰西ト同ク辭ノ國ナリ、文字ノ國ニ非ラザルナリ、然ルニ千六百年前ヨリ、漢土ノ文字ヲ傳習シ、諸般ノ學藝ヲ流傳セシニヨリ、即今用フル所ノ文字ハ、漢土ノ文字ヲ以テ先トシ、別ニ五十音ノ國字アレドモ、日漢ノ字ヲ析製セシモノニテ、言語モ亦タ自ラ漢語ヲ雜ル者多シ、

○上古篇

神代ヨリ佛教傳來ニ至ル

天地開闢ノ狀況ヨリ天孫降臨ニ至ルマテノ事ヲ述ベヨ

天地開闢ノ始メ、天ノ真中ニ神アリ天御中主神ト云フ、又ニ神アリ高皇產靈神。神皇產靈神ト云フ、此以上ノ三神ヲ造化ノ主神トス、次ニ伊弉諾神。伊弉册神ト云フ男女ノ二神アリ、始メテ大八洲ヲ造リ萬物ヲ生成ス(大八洲トハ淡路島、伊豫二名島、四國隱伎島、

伊弉諾神ノ御子ハ何レノ神ナルヤ

國土ヲ何レノ倫ナルヤ

大神ノ勅語ヲ示セ

天孫降臨ノ有様ヲ開フ

(五)

東征ノ原因

神武帝諸皇族ヲ會シテ議シタマヒシ事ハ何ソ

神武帝東征ノ有様ヲ語レ

東征ノ結果

筑紫島、九州壹岐島、津島、對馬佐渡島、大倭、豐秋津洲即チ云フ其御子ニ天照大神○素盞鳴神ノ二神アリ、天照大神ハ高天原ニ在リテ其處ヲ治メ玉ヒ、素盞鳴神ハ降リテ出雲ニ在リ、其子孫大己貴神○少彥名神ト心ヲ合セ、國土ヲ開キ民ヲ撫シ、醫藥ノ法ヲ始ム、天照大神御子忍穗耳命ヲ降シテ此國ニ主タラシメント欲シ、武甕槌神ヲ遣シ命ヲ大己貴神ニ傳ヘシム、大己貴神命ヲ受ケ國土ヲ獻シテ去ル、時ニ忍穗耳尊ノ子瓊々杵尊生ル、大神即チ天孫ニ勅シテ曰ク、豐葦原瑞穗國ハ、吾子孫世々王タルヘキノ地ナリ、汝宜ク就テ治ムベシ、時ニ八咫鏡○天叢雲劍○後草薙劍ハ坂瓊勾玉ヲ授ケテ曰ク、此鏡ヲ視ルコト吾ヲ視ルガ如ク、殿ヲ共ニシ床ヲ同フス可シ、寶祚ノ隆ナル、當ニ天壤ト窮リ無ルベシ、是ニ於テ、天兒屋根命ノ中臣ト齋部ト相トナリ、天忍日命ノ大伴ト天津久米命ノ祖將トナリ、日向ノ高千穗峰ニ降ル、是ヨリ鏡劍玉三種ノ神器ヲ皇位ノ璽トナシ、歷代親授ノ式ヲ以テ相傳ヘ、皇統連綿トシテ天壤ト共ニ窮リナキハ、此神話ニ因ルナリ、

神武天皇ノ創業ヲ語レ

神武天皇ハ、天照大神五世ノ孫ニシテ、鷓鴣草尊不合尊ノ第四子ナリ、天皇日向ノ高千穗宮ニ在リ、西州己ニ服シ、東國未タ平カズ、長髓彥、饒速日命ヲ奉シテ主ト爲シ、兄ケシヲトウケシヤリタケル○兄磯城○弟磯城等、各々君長ト爲テ相統一セズ、因テ天皇諸皇族ヲ會シテ曰ク、此豐葦原瑞穗國ハ、我が祖宗ノ天ニ受クル所ナリ、然ルニ運草昧ニ屬シ、遼遠ノ地未タ王澤ニ霑ハズ、吾聞ク東方ニ美地アリ、以テ大業ヲ恢弘シ天下ニ臨ムニ足ル、宜ク就テ都スベシト、乃チ舟師ヲ帥キテ日向ヲ發シ、筑紫ヨリ安藝ヲ過キ、吉備ニ入リ、高鳥宮ニ居ルコト三歳、舟楫ヲ備ヘ、兵食ヲ蓄ヘ、遂ニ航シテ東シ、浪速河内ヲ歷テ大和ノ龍田ニ赴ク路險隘ニシ進ムニ便ナラズ、乃チ還テ膽駒山ヨリ大和ニ入ラントス、時ニ賊帥長髓彥衆ヲ盡シテ皇軍ヲ孔舍衛坂ニ邀ヘ撃ツ、皇軍利アラズ、皇庶兄五瀬命流矢ニ中リテ薨ス、乃チ轉シテ紀伊ヨリ進ミ、名草戸畔ヲ誅シ、荒坂津ニ至リ、丹敷戸畔ヲ誅ス、又進ンデ熊野ヨリ菟田ニ至リ、兄猾ヲ誅ス、弟猾降ル、更ニ進ンテ八十梟帥ヲ國見岳ニ、兄磯城ヲ黑坂ニ撃テ、皆ナ之ヲ斬ル、遂ニ進ンテ長髓彥ヲ討ス、饒速日命、長髓彥ヲ殺シテ以テ降ル、是ニ於テ中州悉ク平ク、乃チ都ヲ大和ノ橿原ニ奠メ元年辛酉正月即位ノ禮ヲ行ヒ、尋テ功ヲ論シ賞ヲ行ヒ功臣ヲ封シテ申食國政○大夫、國造、縣主ト爲シ、又靈峙ヲ鳥見山ニ作り、皇祖天神ヲ祭ル、天皇神聖ノ遺烈ヲ承ケ、一舉シテ海内ヲ定メ、萬世不朽ノ基ヲ開ク盛徳大業至レルカナ、

(六)

不軌ヲ圖ル
ノ原因

手研耳命ノ亂ヲ問フ

綏靖帝、先帝ノ崩御ヲ悲慕シテ己マズ、因テ萬機ヲ庶兄手研耳命ニ委ヌ、手研耳命久シク樞機ヲ典リ、威福ヲ擅ニシ、遂ニ不軌ヲ圖ル、帝之ヲ知り、密ニ母兄神八井耳命ト謀ヲ協セ、山陵ノ事畢ルニ及テ、其困臥ヲ伺ヒ、八井耳命ヲシテ之ヲ射殺セシメントス、八井耳命戰慄シテ矢ヲ發ツ能ハス、帝其弓矢ヲ奪フテ之ヲ射殺シ、以テ天位ヲ正ス、手研耳命ノ亂トハ即チ是レナリ、

(七)

七世ノ垂拱トハ如何ナル事ゾ

安寧○懿德○孝昭○孝安○孝靈○孝元○開化ノ七帝ハ、淵默沖靜ニ至化ヲ敷キ。政令簡朴。其民皞々如タリ、天祖ノ隆緒ヲ續キ。列聖ノ耿光ヲ蘊シ。無爲ノ德不宰ノ功。人能ク得テ名クル莫シ。衣裳ヲ垂レテ治ル者ハ其レ斯ノ時ニ在リ、是ヲ七世垂拱ト云フ

(八)

神器ヲ笠縫ノ邑ニ遷セシハ如何ナル理由カ

神器ハ、天祖ノ勅ニ從ヒ、歷朝之ヲ殿内ニ奉ス、崇神帝神威ヲ瀆シテ長レ別ニ鏡劔ヲ模造シ、八坂瓊勾玉ト共ニ正殿ニ置キ、以テ護身ノ璽ト爲シ、神授ノ鏡劔ヲ大和ノ笠縫邑不詳ニ遷シ、皇女豐鍬入姫ニ命シテ、常ニ祀事ヲ掌ラシム、後チ垂仁帝ノ朝ニ至リ、

宇治ノ内宮ニハ如何

(九)

四道將軍ヲ置キタルハ何レノ朝ナルヤ

更ニ笠縫ヨリ伊勢ノ度會ニ遷シ、齋宮ヲ五十鈴川ノ上ニ建ツ宇治ノ内宮是レナリ、崇神帝ノ朝、諸國大ニ疫癘流行シ、人民死亡大半、或ハ背叛スル者アリ、因テ大彥命孝元帝ノチ北陸ニ、武渟川別ノ子大彥東海ニ、吉備津彦孝靈帝ノ西道ニ、道主開化帝ノ丹波ニ遣シ、並ニ將軍ノ印綬ヲ授ケ、兵ヲ率テ巡按セシム、令チ受ケザル者アレバ、之ヲ征誅スルヲ聽ス、發スルニ及ンテ會武埴安彥皇子反シ、京師ヲ襲フ、諸將討テ之ヲ平ク、既ニシテ大彥等四道ニ赴キ、威德大ニ行ハル、帝濬哲ノ資ヲ以テ心ヲ民事ニ用フ、人民ノ戸口ヲ校ヲ課シ、始テ船舶ヲ造リ、故ニ人民殷富、世稱シテ御肇國天皇ト曰フ、

狹穗彥ノ反トハ如何

垂仁帝ノ朝ニ狹穗彥反シ誅ニ伏ス、狹穗彥ハ皇后ノ兄ナリ、初メ狹穗彥潛カニ不軌ヲ圖ル、因テ皇后ヲ誘ヒ、謀ルニ纂立ヲ以テス、皇后密カニ之ヲ奏ス、帝八綱田崇神城入彥命ノ子ナリニ勅シテ討セシム、狹穗彥稻ヲ積ンテ城ト爲シ、堅ク之ヲ守ル、皇后、兄ノ死キ坐視スルニ忍ビズ、走テ城ニ入ル、城陷リ、遂ニ兄ト共ニ自ラ焚死ス狹穗彥ノ反トハ即チ是レナリ、

狹穗彥ノ反
セシ原因

(一〇)

(二)

兵器ヲ祭幣ト爲スノ原
因
太刀一千口ヲ藏スルハ何ノ爲メカ

(三)

殉死ヲ禁セシ原因

殉死ニ代フモノハ何ゾ

(三)

景行帝戎夷ヲ平ケシ有様如何

景行帝ノ朝、筑紫ノ熊襲今ノ日向、大隅、薩摩、反ス、帝親征シテ、行、周芳豊前ノ諸賊ヲ勦シ、遂ニ日向ノ高屋宮ニ駐ルコト六年熊襲誅ニ伏シ、筑紫悉ク平ク、因テ京師ニ凱旋ス、後子熊襲復タ反ス、皇子日本武尊ニ命ジテ征討セシム、尊、時二年十六、熊襲ノ國ニ赴キ、其形勢ヲ伺フ、適、賊魁川上梟帥窟屋ニ宴ス、尊、髮ヲ解テ女裝ヲ作シ、潜カニ賊室ニ入り、梟帥

日本武尊川上梟帥ヲ誅シ有様ヲ述ヘヨ

ヲ刺殺ス、是時梟帥曰ク、汝ハ誰レナルヤト、曰ク吾ハ是レ大足彦天皇ノ子、日本童男ナリ、梟帥曰ク、吾強力、國中ニ冠タリ、未曾テ武勇皇子ノ如キ者ヲ見ズ、願クハ尊號ヲ上リ日本武皇子ト曰ント、言訖ル、遂ニ刺テ之ヲ殺ス、餘衆震服シ、熊襲悉ク平ク、

(四)

武内宿禰東北巡察何ノ復命如

日本武尊東夷ヲ征問フ

巖雲ノ劍ヲ草薙ノ劍ト改メメザシハ何故

景行帝蝦夷ヲ征セシ概要ヲ陳ヘヨ

景行帝、東國ヲ征略セント欲シ、武内宿禰ヲシテ、東北ノ諸國ヲ巡察セシム、數年ヲ經テ還リ、奏シテ曰ク、東夷ニ日高見國今ノ阿比留アリ、男女椎結文身、天性勇敢、總稱シテ蝦夷ト曰フ、收テ朝廷ノ用ト爲ス可シト、既ニシテ東夷叛ス、帝日本武尊ニ命シテ之ヲ征シ、吉備武彦、大伴武日ヲシテ之ニ副タラシム、尊、京師ヲ發シ駿河ニ至ル、時ニ賊ノ誘フ所ト爲リ、行テ游獵ス、賊火ヲ縱テ野ヲ燒ク、尊、乃チ劍ヲ拔テ草ヲ薙ギ、燧ヲ鑽テ火ヲ縱ツ、火反テ賊ニ向フ、賊皆ナ焚死ス、因テ其神劍ヲ草薙劍ト稱ス、遂ニ進テ相摸ヲ經、將ニ上總ニ航セントス、海上風起リ、船將ニ覆没セントス、時ニ妃橘姫從フ、曰ク海神崇ヲ爲ス、妾請フ身ヲ以テ皇子ニ代ント、言訖テ海ニ投ス、風定テ岸ニ著クヲ得、上總ヨリ轉シテ陸奥ニ入り、蝦夷ニ至ル、賊酋風ヲ望テ降附シ蝦夷悉ク平ク、乃チ師ヲ旋シ常陸ヲ經テ甲斐ニ抵ル、時ニ信濃、越國今ノ出羽未ダ服セザル者アリ、即チ武藏、上野ヲ經テ碓日嶺

吾嬬ト云
起原如何

熱田ノ神
社ナルモ
何ナルモ
ヤシテアル

(一五)
都督ヲ置キ
タル原因

推古朝ニハ
許ノ國造
アリシヤ

ニ至リ、東望シテ橘媛ヲ懷ヒ嘆シテ曰ク、吾嬬ト、是ヨリ東國ヲ稱シテ吾嬬ノ國ト曰
フ、既ニシテ吉備武彦ヲ越國ニ遣シ、自ラ信濃ヲ經テ尾張ニ至ル、時ニ近江ノ膽吹山ニ
暴神アルヲ聞キ、即チ神劔ヲ解キ徒行シテ膽吹山ニ入り之ヲ誅ス、後チ其劔ヲ祀ル、今
ノ熱田神社是レナリ、而シテ尊、伊勢ノ能褒野ニ至リ疾ス、吉備武彦ヲシテ捷チ京師ニ
奏セシメ、遂ニ薨ス、

東山道ニ都督ヲ置キタルハ何ノ爲メナルヤ

景行帝東巡シテ嚮キニ日本武尊平クル所ノ諸國ヲ歴覽シ、還リテ彦狹島王ヲ東山道十
五國ノ都督ト爲ス然ルニ赴任セズシテ薨ス、因テ其子御諸別王ヲ以テ其職ヲ襲ハシメ、
蝦夷ノ未タ服セサル者ヲ討シ遂ニ之ヲ平ク

成務帝國縣ヲ分チシ有様如何

成務帝ノ朝、國郡ニ令シテ造長ヲ立テ、縣邑ニ稻置ヲ置キ、竝ニ楯矛ヲ賜フテ表ト爲ス、
山河ヲ界シ、國縣ヲ分チ、阡陌ニ隨テ邑里ヲ定ム、東西ヲ日ノ縱ト爲シ、南北ヲ日ノ横ト
爲シ、山陽ヲ影面ト曰ヒ、山陰ヲ背面ト曰フ、此ニ至テ國縣ノ制大ニ定ル、爾來其數増殖
シ、推古常ノ朝ニハ百四十四ノ國造アリ、

(一七) 大臣、大連ヲ置キシハ何朝ノ時ニ始リシヤ

武内宿禰國家ニ大功アリ、景行帝ノ朝、棟梁ノ臣ヲ置テ之ニ任ズ、後チ成務帝ノ朝ニ、宿
禰ヲ以テ大臣ト爲ス、又仲哀帝ノ朝ニ大伴武以ヲ以テ大連ト爲ス、大臣大連ヲ置クハ此
ニ始ル

(一六) 神功三韓ヲ征セシ顛末ヲ問フ

仲哀帝二年、越前ノ角鹿ニ行幸ス、皇后神功從フ、帝遂ニ皇后ヲ此ニ留メ、南國ニ巡狩シ
テ紀伊ニ至ル、會々熊襲叛ス、帝海ニ航シテ親カラ之ヲ征シ、使チ遣リ皇后ニ敕シテ、穴
門ニ會シ、豐浦宮ニ居ルコト八年、進テ筑紫ニ幸シ、橿日宮ニ居ル、乃チ群臣ヲ會シテ熊
襲ヲ討スルコトヲ議ス、時ニ神アリ皇后ニ憑テ曰ク、西方ニ國アリ新羅ト曰フ、帝先ツ
之ヲ征セヨ、彼ノ熊襲ノ如キハ、則チ當ニ自ラ服スベキノミト、帝聽カズ、親ラ戰フテ利
アラズ、翠年橿日宮ニ崩ス、皇后秘シテ喪ヲ發セズ、密カニ武内宿禰ヲシテ殯事ヲ奉セシ
メ、神ニ禱リ、終ニ意ヲ決シテ西征ス、群臣ヲ諭シテ曰ク、師ヲ興シ衆ヲ動スハ、國ノ大
事、安危成敗、此一舉ニ在リ、事成ラバ群臣其功ヲ共ニシ成ラザレバ吾レ獨リ罪アラン、
是ニ於テ臆別ヲシテ熊襲ヲ討セシム、旬日ニシテ服ス、皇后乃チ舟師ヲ帥キテ遂ニ發シ

三韓ヲ征ス
ル原因

神功皇后
ノ諭旨ハ
如何

三韓降服ノ有様ヲ述ヘヨ

直チニ新羅ニ抵ル、戰艦海ヲ蔽ヒ鼓聲天ニ震フ、新羅王波寐錦大ニ駭テ曰ク、神兵敵ス、可ラズト、乃チ面縛シテ出テ降ル、皇后命シテ質ヲ納レ盟ヲ申ベ、金銀綉帛八十船ヲ徵ス、自後調貢、八十船ヲ以テ定額ト爲ス、高麗百濟モ亦タ風ヲ望テ來リ降ル、是ニ於テ三韓悉ク服ス、乃チ官司司戍兵ヲ置テ凱施ス、

應仁帝文教ヲ興セシコトヲ問フ

應神帝十五年、百濟王其臣阿直岐ヲシテ良馬ヲ貢セシム、阿直岐能ク經典ニ通ス、皇子稚郎子從テ學ブ、阿直岐更ニ博士王仁ヲ薦ム、乃チ荒田別ヲ百濟ニ遣シ王仁ヲ徵ス、翌年王仁來朝シ、論語十卷千字文一卷ヲ獻ス、我邦文教ノ興ル實ニ此ニ始マル、

仁德ノ政化ハ如何

先帝應神ノ崩スルヤ、太子敢テ位ニ卽カズ、之ヲ帝仁德ニ讓テ曰ク、大王ハ仁孝ナリ、宜ク天下ニ君臨スベク、且ツ昆ハ上ニシテ弟ハ下ナリ賢ハ君ト爲テ不肖ハ臣ト爲ル、古今ノ常經ナリ、願クハ大王帝位ニ登レ、帝對テ曰ク、先皇謂フ天位一日モ空フス可カジズト、故ニ預メ明德ヲ選テ以テ貳ト爲ス、初ノ先帝少子稚郎子ヲ愛シ、立テ皇太子ト爲ント欲ス、帝及ヒ大山守命ヲ召シテ問テ曰ク子ヲ愛ス少長孰レカ甚シキト帝其意ヲ曉リ乃チ

仁德帝恭儉ノ政ハ如何

對テ曰ク少子ヲ甚シト爲ス先帝大ニ悦ヒ遂ニ儲貳ヲ定ムルニ因ル、我レ豈ニ先皇ノ命ニ違ンヤト、固辭シテ聽カズ、太子遂ニ堯道ニ遜ル、相ヒ讓リテ位ヲ空フスルコト三年ニ垂ントス、帝モ亦タ敢テ位ニ卽カズ、太子兄ノ志奪フ可カラサルヲ知リ遂ニ自殺ス、帝痛ク自ラ節儉シ、宮室壘セズ、梁楹飾ラズ、其額圮ニ任ス、是ニ至テ詔シテ曰ク朕高臺ニ登ル、人煙起ラズ、乃チ知ル百姓窮乏、家ニ炊ク者ナキヲ、今ヨリ後チ三年民ノ課役ヲ除ケド、三年ニシテ炊烟盛ニ起ル、喜ンテ皇后ニ謂テ曰ク、朕既ニ富ム復タ何ソ憂ン、皇后曰ク、宮室毀壞ス、何ソ富ムト謂フヤ、帝曰ク、君ハ民ヲ以テ本ト爲ス、民富メハ則チ朕富ム、民貧レハ則チ朕貧キナリ、未タ民富テ君貧キ者ハアラザルナリ、十年始メテ課役ヲ科シ、宮室ヲ造ル、庶民謹呼來リ赴キ日ナラズシテ成ル、帝萬乘ノ上ニ生レテ、四海ノ富チ有チ、而シテ恭儉德ヲ爲シ、仁恕政ヲ爲ス、未タ數歲ナラズシテ百姓毀富、教化大ニ行ハレ、刑罰措テ用キザルコト二十餘年、民ノ之ヲ仰ク父母ノ如シ、

(三)

履中、允恭、雄略帝ノ三朝ニハ政事上何如ナルコトアリシヤ……………履中帝ノ朝始メテ史官ヲ諸國ニ置キ、民ノ言事ヲ記シ、四方ノ志ヲ通ス、時ニ三韓貢獻、奕世絶ユルナシ因テ齋藏ノ傍ニ内藏ヲ建テ、官物ヲ分收シ藏職ヲ建テ、藏部ヲ定ム、又

史官職職トハ何ソシ原因允恭帝ノ

朝姓氏ヲ
改正シタ
ナル理由
何
姓改正ノ
原因

雄略帝ノ
朝ニ於ケ
ルノ農況
如何

我國佛教傳
播ノ原因
始メテ佛
教ノ流傳
帝ノ朝
何

敏達帝ノ
朝佛教ノ

有様如何

用明帝ノ
朝佛教ノ
有様如何

崇峻帝ノ
朝佛教ノ
有様如何

允恭帝、姓氏ノ詐冒ヲ憂ヒ、百官諸臣ヲ宗廟ニ會シテ神ニ誓ヒ湯ヲ探ラシメ以テ之ヲ正
ス深湯ハ熱湯中ニ手ヲ入レ眞偽ヲ定ムル法ニシテ僞ル者ハ手爛ル是レ畢竟世襲ノ職業歷世漸ク久クシテ隆替ヲ生シ、諸臣ノ
姓氏錯亂ス、或ハ神裔皇孫ヲ冒稱シ、或ハ出自ヲ失テ他族ニ混シ、官職及ヒ貴賤ノ別隨
テ紛淆シ、爭訟屢々起ルヲ以テナリ
雄略帝、心ヲ農事ニ用ヒ、妃ヲシテ躬カラ桑トリ以テ蠶事ヲ勸メ、遂ニ諸國ニ詔シテ桑
ヲ植ヘシム、又豐受大神ヲ伊勢ノ山田ニ祀ル、初メ祠丹波ニ在リ、是ニ至テ遷ス今ノ外
宮是レナリ

佛敎傳來ノ有様如何

欽明帝ノ朝、百濟王、佛像及ヒ經論ヲ獻シ、上表シテ其功德ヲ稱賛ス、帝群臣ニ下シテ議
セシム、大臣蘇我稻目受ケテ之ヲ禮セント請フ、大連物部尾輿、中臣勝海俱ニ奏シテ曰
ク、國家素ヨリ天地群神ヲ祭ル、今蕃神ヲ拜セバ恐ラクハ神怒ヲ致サント、帝之ニ從ヒ、
乃チ佛像ヲ稻目ニ賜フ、稻日向原ノ第ヲ捨テ寺ト爲シテ之ヲ祭ル、時ニ諸國大ニ疫ス、
尾輿等以テ佛ノ致ス所ト爲シ、奏請シテ佛像ヲ堀江ニ投シテ、其寺ヲ燒ク、後チ敏達帝
ノ朝疾疫流行シ民多ク死ス、初メ百濟經論及ヒ禪師、比丘尼、呪禁師、造寺匠、佛工ヲ獻

ズ、新羅モ亦タ佛像ヲ獻ス、蘇我馬子稻目其法ヲ崇信シ、佛字ヲ第中ニ造ル、物部守屋尾輿ノ子
中臣勝海等、佛ヲ喜バズ、因テ奏請シテ寺塔及ヒ佛像ヲ燒キ、又馬子信スル所ノ三尼ヲ
捕ヘテ之ヲ撻ツ、是ニ於テ馬子憂懼シテ疾ニ寢ス、切りニ三寶佛法ヲ奉センコトヲ請フ、
帝曰ク汝獨リ之ヲ爲セ、他人ヲ惑ハス勿レト、降テ用明帝ノ朝ニ至リ帝不豫ナリ、厩戸
皇子側ニ侍シ、口佛經ヲ誦シテ止マス、帝詔シテ曰ク、朕佛ニ歸セント欲ス、群臣其レ之
ヲ議セヨ、守屋、勝海進テ曰ク、奈何ゾ國神ニ背テ蕃神ヲ敬セン、馬子曰ク、臣請フ詔ヲ
奉セン、乃チ僧豐國ヲ延テ禁中ニ入ル、厩戸皇子馬子ノ手ヲ握リ涕ヲ隕シテ曰ク、今日
ノ事、大臣ガ心ヲ福田ニ歸スルニ非レハ、則チ烏ツ能ク成ルヲ得ン、馬子叩頭シテ曰ク、
殿下聖德ノ致ス所ナリ、且ツ臣死ヲ以テ佛ヲ護セン、守屋瞬視シテ大ニ怒ル、是ニ於テ
二人怨隙滋々甚シ、既ニシテ守屋、馬子等ガ已チ圖ルト聞キ、兵ヲ集メテ自ラ守ル、勝海
之ガ應援ヲ爲ス、馬子人ヲシテ勝海ヲ殺サシム、時ニ帝崩ズ、繼嗣未タ定ラズ、守屋穴穗
部皇子ヲ立ント欲ス、謀泄ル、馬子、穴穗部皇子及ヒ宅部皇子ヲ弒シ、遂ニ守屋ヲ殺ス、
是ヨリ復タ佛ヲ闢スル者ナシ、時ニ帝崩ス、崇峻帝立ツ、帝、馬子ノ橫暴ヲ惡ミ、密カニ
厩戸皇子ニ謂テ曰ク、馬子ハ内私怨ヲ恣ニシ、外ハ佛法ヲ崇フ、河ヲ以テ之ヲ處セン、對

佛教傳播ノ結果

テ曰ク、馬子ハ誠ニ驕恣ナリ、惟々陛下之ヲ忍べ、會々猪ヲ獻スル者アリ、帝猪ヲ指シテ曰ク、何レノ時カ朕ガ惡ム所ノ人ヲ斷スル、此猪ヲ斷スル如クナラント、馬子聞テ大ニ惧レ、人ヲシテ帝ヲ弑セシム、厩戸皇子聞テ哭シテ曰ク、是レ帝ガ過去ノ報ナリト、遂ニ其罪ヲ治メズ、是レヨリ、厩戸皇子、馬子ト共ニ布教ニ力ヲ盡セリ、百濟王佛像ヲ獻セシヨリ推古帝三十二年ニ至ル、僅カニ七十五年、其間寺ヲ建ツルコト四十六、僧尼ヲ度スルコト一千三百八十五人、佛法遂ニ瀾蔓ス、

(三)

厩戸皇子ノ撰セシ憲法トハ如何ナルモノゾ

厩戸皇子聖德太子作ル所ノ憲法トハ、君命臣行ノ道ヲ明ニシ、上和下睦ノ理ヲ説キ、禮信ヲ本トシ、忿欲ヲ絶チ、勸善懲惡賞罰必當、賢才ヲ用ヒ、民業ヲ勸ム、等ニシテ凡テ十七條、而シテ其主意ハ訓戒ニ在リ、

(二)

上古ノ官制、文學、法律ノ概要ヲ問フ

上古ノ事ハ邈トシテ詳ニスルニ由ナシ、蓋シ神人無別ノ世ナルヲ以テナリ、神武帝中原ヲ平定スルニ及ンデ、天種子命、天富命ニ祭祀朝政ヲ掌ラシメ、可美眞手命、道臣命等ニ禁軍警衛ヲ掌ラシム、其他功臣ヲ封シテ國造縣主ト爲ス、其子孫世々、官職ヲ襲

神武帝ノ朝ニ於ケル官制如何

景行、成務、雄略、崇峻、推古、舒明、皇極帝、敏達朝ノ官制如何

上古文學ノ有様ヲ語レ

上古ニ於ケル法律ハ如何

キ、以テ上一人ヲ奉戴ス、百官ノ制是ニ於テ始メテ備ハル、景行帝ノ朝、武内宿禰ヲ以テ棟梁ノ臣ト爲シ、成務帝ノ朝ニ大臣ヲ置キ、雄略帝ノ朝ニ大連ヲ置キ、共ニ大政ニ參與セシム、崇峻帝ノ朝ニ至リ、大臣蘇我馬子、威權ヲ擅ニシ、遂ニ大連物部守屋ヲ殺ス、後チ復タ大連ヲ置カズ推古、舒明、皇極帝ノ三朝ヲ歷テ唯ニ大臣アリ以テ大政ヲ宰セリ、是レ紀元元年ヨリ紀元千三百二年ニ至ル官制ノ概要ナリ、

本邦文學ノ興ルハ、百濟國王、論語、千字文ヲ獻シ、博士王仁ヲ貢スルニ始マル、實ニ第十五代應神帝ノ朝ニ在リ、履仲帝ノ朝ニ至リ始メテ諸國ニ史官ヲ置キ、以テ四方ノ志ヲ達ス、繼體帝ノ朝モ亦タ五經博士ヲ百濟國ニ徵ス、推古帝ノ朝ニ及ンデ、更ニ歴及ヒ天文地理ノ書ヲ貢獻ス、乃チ書生ヲ選ンテ其法ヲ學バシム、時ニ厩戸皇子、蘇我馬子等、天皇記、國紀、臣、連、伴造、國造、公民等ノ本記ヲ撰ム、實ニ文運旺盛ノ時ト謂フ可シ、是上古文學ノ概要ナリ、

上古ハ惟罪ニ天罪倭橋ヲ害シ齋殿ヲ汚スノ類ヲ天罪ト曰フ、國罪人ヲ傷シ姦淫毒ノ類ヲ國罪ト曰フノ別アリ、罪ノ輕重ニ依リ物ヲ徵シテ贖ハシム、之ヲ解除ト曰フ、其元惡大懲改悛スルノ心ナキ者アレバ兵力ヲ以テ之ヲ殺戮ス、蓋シ刑ノ極ナリ、

(三)

中古以前日本人ノ食物ハ如何

十八

我國ニ於テハ、神代ノ時ヨリ、既ニ米作ノコト行ハレシヲ以テ、國民多クハ米食セシモ、其米ハ玄米ノミニシテ、甑蒸ニシテ強飯トセルモノ、ミ、之ヲ春キテ白米トセシハ、仁德天皇以後ノコトナルガ如シ、又國民中、米食セルモノハ、大抵魚鳥戰肉ノ類ヲ食フ、然レバ上古ハ、肉食一般ニ行ハレタレドモ、佛教傳來シテ、殺生ヲ戒メシヨリ、肉食ノ度大ニ減ジタリ、又常食ハ朝夕ノ二回ニシテ、中食ヲ用フルコトナカリキ、又當時已ニ酒ヲ飲ミシ者アリシモ、今日ノ如キ酒ニアラズ、所謂醴酒ニシテ、一夜釀ノモノナリ、飲食ノ器具ハ、土或ハ木葉ヲ以テ製シ、盤、窪杯、甕、手挾等ニシテ、飯ハ之ヲ木葉ニ盛ル、又食卓アリ、神前ニ饗物ヲ供ヘ、貴人ニ獻スルトキニ之ヲ用ヒシモノナリ、

(三)

上古兵制ノ概畧ヲ示セ

神武帝天業ヲ恢弘シタマウヤ、猛將謀臣、聖德ニ感シ、其智勇ヲ奮フ、而シテ道臣命、大久米命尤モ著ハル、中州既ニ平クニ及ヒ、各自其兵ヲ率テ宮門ヲ護衛シ、開閉ヲ掌ル、後世衛府ノ兵此ニ始ル、可美眞手命モ亦タ其部兵ヲ率テ、儀衛ヲ嚴ニス、之ヲ物部ト曰フ、垂仁帝ニ至リ、兵器ヲ以テ祭幣ト爲ス、時ニ大刀一千口ヲ石上ノ神宮ニ藏ム、蓋シ

垂仁帝ノ朝兵事如何ナルコトアリシヤ

(七)

年號ノ始及ヒ始テ左右大臣並ニ内臣ヲ置キシハ何レノ朝ナルヤ……………

● 中古篇

大化ヨリ治承ノ難ニ至ル

孝德帝ノ朝隋唐ノ制ニ倣ヒ、始テ年号ヲ建テ大化ト曰フ、是年始メテ左右大臣及ヒ内臣ヲ置ク、而シテ阿部倉梯麻呂ヲ左大臣ニ山田石川麻呂ヲ右大臣ニ中臣鎌足ヲ内臣ニ任ゼシナリ

(元)

大化ノ新制トハ如何ナルモノゾ……………

孝德帝二年、詔シテ新令ヲ宣ブ、其一ニ曰ク、祖宗立ル所ノ子代ノ民、處々ノ屯倉、及ヒ別、臣、連、伴造、國造、村首ノ有スル所ノ部曲田莊ヲ罷ム、仍テ食封ヲ大夫以上ニ賜フ、各差アリ、布帛ヲ官人百姓ニ賜フモ亦タ差アリ、二ニ曰ク、始メテ京師ヲ修メ、畿内、國司、郡司ヲ置ク、關塞斥侯、防人驛傳ハ、鈴契ヲ造リ、山河ヲ定ム、凡ソ京ハ坊毎ニ長ヲ置キ、四坊ニ令ヲ置キ、戶口ヲ案檢シ、奸非ヲ督察ス、凡ソ畿内ハ東ハ名譽横河ヨリ、南ハ紀伊ノ兄山ヨリ、西ハ赤石櫛淵ヨリ、北ハ近江ノ合坂山ヨリ以内ヲ、畿内ト爲ス、凡ソ郡ハ四十里ヲ大郡ト爲シ、三十里以下四里以上ヲ中郡ト爲シ、三里ヲ小郡ト爲ス、並ニ大領、小

國司郡司ノ制如何
畿内及ヒ郡部ノ區城ハ如何

戶籍計帳
班田收授
法如何

田開如何

領、主政、主帳ヲ置キ、凡ソ驛傳ハ皆ナ傳鈴符刻數ニ依ル、凡ソ諸國及ビ關ハ、鈴契ヲ給ス、竝ニ長官之ヲ執ル、三ニ曰ク、始メテ戶籍計帳班田收授法ヲ造ル、凡ソ五十戸ナ里ト爲シ、里毎ニ長ヲ置キ、戶口ヲ按檢シ、農桑ヲ課殖シ、非違ヲ禁察シ、賦役ヲ催督ス、凡ソ田ハ長サ三十步、廣サ十二步ヲ段ト爲シ、十段ヲ町ト爲シ、段ゴトニ租稻二束二把、町ゴトニ租稻二十二束、山谷僻遠ハ、便ニ隨テ量置ス、四ニ曰ク、舊賦役ヲ罷メ、田調ヲ行フ、凡ソ絹絁絲綿並ニ郷土ノ出ス所ニ隨フ、田一町ニ絹一丈、四町匹ヲ或ス、長サ四丈廣サ二尺半、絁二丈、二町匹ヲ成ス、長廣絹ニ同シ、布四丈、長廣絹ニ同シ、絁一町端ヲ成ス、別ニ戶別ノ調ヲ收ス、一戸ゴトニ布一丈二尺、凡ソ調ハ副物鹽贖モ亦タ郷土ノ出ス所ニ隨フ、凡ソ官馬ハ中馬百戸毎ニ一匹ヲ輸ス、細馬二百戸毎ニ一匹ヲ輸ス、其價ハ一戸布一丈二尺、凡ソ兵ハ人身刀甲弓矢幡鼓ヲ輸ス、凡ソ仕丁ハ五十戸毎ニ一人諸司ニ充ツ、五十戸ヲ以テ仕丁一人ノ糧ニ充ツ、一戸ノ庸布ハ一丈二尺、庸米ハ五斗、又東國々司以下ニ詔ヲ下シ、大ニ改革ヲ斷行シ、從來ノ弊ヲ矯正シテ郡縣ノ制ヲ定ム、是ニ至テ國勢一變ス、後又兵庫ヲ諸國ニ造リ、沿邊ノ兵備ヲ修ム、冠十九階ヲ制シ、八省中務式部治部民部兵部刑部大藏宮内百官ヲ置ク、是レ之ヲ大化ノ新制ト云フ、

(元)

中興ノ祖トハ何帝ナルヤ

中興ノ偉業ヲ贊ナルヤ

(三)

本邦活字ノ起源ハ何レノ朝ナルヤ

天智帝、天姿明敏、學ヲ好ミ文ヲ能クス、人ヲ知テ能ク任シ、治体ニ明習シ、學校ヲ興シ、典禮ヲ制シ、大ニ郡縣ノ制ヲ定ム、稱シテ中興ノ祖ト爲ス、内臣鎌足忠誠ニシテ器器アリ、帝ノ大難ヲ定メノ制度ヲ立大化ノ新制ノ如キ帝太子タリシ時ル鎌足與テ力アリシト云フ、
今ヲ距ル凡千四百餘年前、即チ孝謙帝ノ神護景雲年間ニ勅シテ一百万ノ小塔ヲ作り、根本慈心相聽六度等ノ六種ノ陀羅尼ヲ其中心ニ藏メテ之ヲ十大寺ニ置ケリ、而シテ之ヲ摺寫セルモノ正シク活字板ヲ用ヒタルコト判然タリ、是ヲ本邦活字ノ起源ト爲ス

(三)

道鏡ノ亂ハ如何

稱徳帝ノ朝、僧道鏡ヲ以テ太政大臣禪師ト爲シ、尋テ法皇ノ位ヲ授ケ、文武百官ヲシテ拜賀セシム、是ニ至テ道鏡ノ驕僭日ニ滋々甚シ、時ニ宇佐ノ廟祝阿曾麻呂、道鏡ニ詔ヒ、神語ニ託シテ曰ク、位ヲ道鏡ニ禪ラバ天下太平ナラント、道鏡之ヲ聞テ大ニ喜ヒ、帝甚タ感フ、從五位下和氣清麻呂ヲシテ更ニ神教ヲ請ハシム、發スルニ臨ンデ道鏡、清麻呂ニ謂テ曰ク、神既ニ位ヲ我ニ許ス、卿宜ク實ヲ以テ復命スベシ、然ラズンハ劍アルノミ

道鏡帝位ヲ
觀鏡スルノ
原因

清麻呂ノ忠烈ヲ述ヘヨ

道鏡ノ處分ハ如何ナリシヤ

ト、清麻呂、宇佐ニ至リ、祝禱スルコト通宵、還テ神教ヲ奏シテ曰ク、我國開闢以來、君臣ノ分定ル、臣ヲ以テ君ト爲スハ未タ有ラサルナリ、天日嗣ハ、必ズ皇緒ヲ立ツベシ、敢テ非望ヲ懷ク者ハ、速ニ罰極セヨ神教此ノ如シト、道鏡大ニ怒リ、付ケテ矯誣ト爲シ、官位姓名ヲ奪ヒ、更ニ穢麻呂ト名ケ、大隅ニ流シ、人ヲシテ之ヲ途ニ殺サシム、會々敕使ノ來ルアツテ免ル、ヲ獲タリ、光仁帝ノ朝、道鏡ガ死罪一等ヲ減シテ之ヲ下野ニ流シ、清麻呂ヲ召シ還シ、尋テ本官ニ復ス

桓武帝遷都ノ概畧ヲ問フ

桓武帝、延暦三年、宮城ヲ山背國乙訓郡長岡ニ經始ス、十二年地ヲ葛野郡ニ相シテ宮城ヲ營シ、諸國ニ課シテ、宮門ヲ造ル、十三年車駕新京ニ遷ル、詔シテ曰ク、此地ノ形勢ハ山河襟帶、自ラ城ヲ成ス、宜ク山背ヲ改メテ山城國ト爲スベシ、士民又謳歌シテ平安京ト曰フ

桓武帝ノ朝大内造營ノ有様如何

藤原小黑麻呂、紀古佐美ニ命シ、山背葛野郡宇太村ノ地ヲ相シ、諸國ニ課シテ大内裏ヲ造營シ、十二門ヲ建ツ、皇居及ヒ百官諸司其内ニ在リ、南北四百六十丈、東西三百八十四丈、郭門ヲ羅城ト曰フ、左右二京東北一千五百七十丈、南北一千七百五十三丈、朱雀門其中央ニ當リ、東ヲ左京、西ヲ右京トス、街衢一千二百十六アリ、八戸ヲ行トシ、四行ヲ街トシ、四街ヲ保トシ、四保ヲ坊トシ、四坊ヲ條トス、總テ九條、每條相距ル一百四十四丈、其間ニ坊アリ、東北極ル所ヲ京極ト曰フ

中古ニ於ケル官制及ヒ文學ノ大畧ヲ問フ

孝德帝ノ朝ニ至リ、左右大臣及ヒ内臣ヲ置キ、國造縣主ヲ廢シテ、新ニ國司郡司ヲ任ス、乃チ冠位十二階ヲ制シ、八省中務、式部、治部、民部、兵部、刑部、大藏、宮内、百官ヲ設ク、天智帝、更ニ冠位ヲ増改シテ二十六階ト爲シ、内官ヲ改メテ内大臣ト稱シ、皇子ヲ以テ太政大臣ト爲ス、文武帝、復タ官名位號ヲ改メ、冠位ヲ賜フヲ停メ易ルニ位記ヲ以テス、文德帝、藤原良房ヲ以テ太政大臣ニ任シ、清和帝、良房ヲ以テ攝政ト爲シ、宇多帝、基經ヲ關白ト爲ス、是レ官制ノ大略ナリ、

天智帝、始メテ學校ヲ興シ、持統帝、食封及ヒ銀兩ヲ博士ニ賜ヒ、以テ之ヲ勸獎ス、文武帝始メテ釋奠ヲ行ヒ、大學ノ制ヲ定メ、學校ヲシテ海内ニ遍カラシムルニ至ル、乃チ其學科ヲ分テ、明法、明經、記傳、文章ノ四道ト爲シ、別ニ音、書、算ノ三科ヲ置キ、因テ公廡

孝德帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概略如何
天智帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概略如何
文武帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概略如何
宇多帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概略如何
清和帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概略如何
持統帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概略如何
天智帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概略如何
文武帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概略如何
宇多帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概略如何
清和帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概略如何
持統帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概略如何
天智帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概略如何
文武帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概略如何
宇多帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概略如何
清和帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概略如何
持統帝ノ朝ニ於ケル官制ノ概略如何

(三)

ノ蘇ヲ以テ大學寮ニ給ス、學制是ニ至テ大ニ備ハル、

國史ノ編纂ハ何レノ朝ヨリ始リシヤ……

國史ノ編纂ハ前ニ述ベシ如ク、推古帝ノ朝、厩戸皇子、蘇我馬子等、天皇紀、國記、臣、連、伴、造、國造、公民等ノ本記ヲ撰ムヲ始メトス而シテ和銅ニ至リ古事記ノ著アリ、養老ニ日本書紀ノ撰アリ、爾後、續日本紀、日本後紀、續日本後紀、文德實錄、三代實錄ノ如キ、相ヒ踵テ編ヲ延曆、承和、貞觀、延喜ノ間ニ成ス、天下號シテ六國史ト曰フ、其他、萬多王ノ姓氏錄、菅原道真ノ類聚國史、齋部廣成ノ古語拾遺ノ如キ、以テ正史ノ闕ヲ補フベク、經國集、懷風藻、本朝文粹諸書ノ如キ、亦以テ當時、詞章宏麗ノ一斑ヲ觀ルニ足ル、

(三)

出羽ノ亂ハ如何シ……

陽成帝、元慶二年、出羽ノ俘囚亂ヲ作シ、火ヲ縱チテ秋田城ヲ燒ク、出羽守藤原興世之ヲ拒ギ、驛ヲ馳セテ變ヲ奏ス、是ヨリ先キ秋田ノ城司長岑近倉禁ニシテ貨ニ贖ル、夷俘憤怨シ、遂ニ相率キテ叛ス、時ニ前歲凶歉、人民飢窘ス、興世兵ヲ徵ス至ラズ、且ツ屢々戰ヒ屢々敗ス、攝政藤原基經計ヲ右中辨藤原保則ニ問フ、保則曰ク、蝦夷内附ヨリ以來ニ百年ニ垂ントス、朝威ニ畏服シテ寇逆アルナシ、今姦吏、私利ヲ規リテ民ヲ困マシメシ

叛亂ノ原因

藤原保則ノ計ハ如何

ニ原因シ、窮寇死戰、其鋒當リ難シ、若シ教ユルニ義方ヲ以テシ、示スニ威信ヲ以テシ、

我カ德音ヲ播テ、彼カ野心ヲ變セバ、刃ニ血ラズシテ服ス可キナリ、其經乃チ、保則ヲ

遣ントス、保則曰ク、彼ハ獸性ナリ之ヲ懷ケント欲セバ、須ラク威ヲ先ニシ以テ之ニ臨

ムベシ、因テ前左近衛將監小野春風ヲ薦ム、春風ハ累世ノ將種勇人ニ過ク此時讒ニ遭ヒ官ヲ免セラル

乃チ保則ヲ出羽ノ權守ニ拜シ、春風ヲ擢シテ鎮守府將軍ト爲シ、往テ之ヲ鎮セシム、時ニ秋田ノ城下ニ賊ト

和セザル者三村アリ、乃チ郡倉ヲ發シテ之ヲ資給シ、慰勉シテ賊ヲ防ガシム、春風甲ヲ

脫シ、單騎ニシテ虜軍ニ入り、具サニ恩詔ヲ宣ブ、是ニ於テ賊叩頭拜謝シ、訴フルニ城司

長岑近ガ貪暴ヲ以テス、春風豪酋數十人ヲ挈テ國府ニ至ル、保則親カラ之ヲ慰勞ス、時

ニ二虜ノ未タ降ラザル者アリ、保則諸豪酋ニ語テ曰ク汝等以テ如何ト爲ス、皆曰ク一策

アリ、請フ暫ク寬暇ヲ賜ヘト、後數日、兩夷ノ首ヲ斬リテ以テ獻ズ、保則其ノ餘黨ヲ撫納

シ、津輕ヨリ渡島ニ至ルマデ夷民盡ク内屬ス、乃チ城ヲ修ム舊制ニ倍ス、境内始テ安シ、

是ニ至テ春風凱旋シ、保則留リテ出羽ヲ鎮ス、是ヲ出羽ノ亂ト云フ、

寬平ノ遣誠トハ如何ナルモノゾ……

宇多帝寬平九年、自ラ書ヲ著シ、臣庶ノ賢否、國家ノ得失ヲ歷舉シテ、以テ皇太子帝位ヲ傳フル時

征討ノ結果

(三)

ヲ誠メテ曰ク、賞罰ヲ明ニシテ、愛憎ヲ用フル勿レ、喜怒ヲ慎ンデ、諸ヲ色ニ形ハス勿レ、婦言ヲ聽ク勿レ、小人ヲ近ク勿レ、治ヲ有識ニ詢ヒ、道ヲ六經ニ求メヨ、左大臣藤原時平ハ功臣ノ後ナリ、少シト雖モ政事ニ熟ス、以テ輔導ニ資ス可シ、右大將菅原道真ハ當今ノ鴻儒ニシテ、深ク政理ニ通シテ直言忌マズ、且ツ將ニ位ヲ讓ントス未タ果タサズ、朝臣曰ク、事留ラバ變生セント、遂ニ朕カ意ヲシテ金石ノ如クナラシム、則チ唯々朕ノ忠臣ノミナラズ、乃チ新君ノ功臣ナリ、其レ之ヲ敬重セヨ、季長ハ典故ニ達シ、長谷雄ハ經典ニ渉ル、共ニ大器ナリ、並ニ宜ク進用スベシ是レ即チ寬平ノ遺誠ナリ、

(元)

文武帝ノ朝ニ修メシ制度ノ大要ヲ語レ

文武帝三年、始メテ答法ヲ定メ、以テ公私ノ奴婢ヲ檢シ、又游手博戯ノ民ヲ禁ス、四年諸王諸臣及ヒ京畿ニ敕シテ兵仗ヲ具ヘシム、又諸國ニ牧ヲ置キ、以テ牛馬ヲ放養ス、是ヨリ先キ律條ヲ撰成ス、是ニ至テ忍壁親王、及ヒ藤原不比フシハラノフヒ子鎌足ニ敕シテ重子テ律令ヲ定ム、是歲始メテ製衣冠司ヲ置ク、大寶元年、帝大極殿ニ御シテ百官ノ朝賀ヲ受ク、儀衛嚴整、禮文大ニ備ハル、尋デ先聖先師ニ大學寮ニ釋奠ス、唐制ヲ參酌シテ學校ノ制ヲ定メ、京師ニ大學ヲ建テ、諸國ニ國學ヲ設ケ、博士ヲ置キ、子弟ヲ教育ス、官位位號ヲ改メ、服色

大寶令ト
ハ何ソ

ヲ定メ、位冠ヲ賜フヲ停メ、易ルニ位記ヲ以テス、親王ハ一品ヨリ四品ニ至ル、諸王群臣ハ一位ヨリ八位ニ至ル、各々正從アリ、第九位ヲ初位ト曰フ、大小アリ、四位以上又上下アリ、總テ二十等、國郡ノ職制ヲ定メ、國ハ守、介、掾、目、史生ヲ置ク、郡ハ領、主政、主帳ヲ置ク、太宰府ハ主神、帥、貳、監、典、判事、令史等ヲ置ク、大寶二年、新律及ヒ度量ヲ領ツ、是チ大寶令ト曰フ、又慶雲二年ニ田租ノ法ヲ定ムル等文物典章頗ル備ハレリ、

(元)

元明、元正ノ治ハ如何

元明帝ノ朝挑文師ヲ諸國ニ遣リ、錦綾ヲ織ルヲ教ユ、和銅五年陸奥ノ十二郡ヲ割テ出羽ノ國ヲ置ク、尋テ丹波ノ五郡ヲ割キ、丹後ノ國ヲ置キ、備前ノ六郡ヲ割テ美作國ヲ置キ、日向ノ四郡ヲ割テ、大隅ノ國ヲ置ク、又諸國ニ詔シテ、郡邑ノ名、務メテ佳字ヲ用ヒ、及ヒ其風土記ヲ作ラシム、

出羽、丹羽、美作、大隅ノ國ヲ置キシハ何帝ノ朝ナルヤ

元正帝ノ詔ハ如何

元正帝、靈龜元年、諸國ノ司ニ詔シテ曰ク、國家ノ隆泰ハ、要スルニ民ヲ富スニ在リ、民ヲ富スノ本ハ、務メ貨食ニ在リ、故ニ男ハ耕耘ヲ勤メ、女ハ織紉ヲ修ム、家衣食ノ饒ナルアツテ、人廉耻ノ心ヲ生ス、凡ソ厥ノ吏民、豈ニ勗メザル可ンヤ、今諸國、惟水澤ノ種ヲ趣カシテ、陸田ノ利ヲ知ラズ、宜ク百姓ヲシテ兼子テ禾麥雜穀ヲ種ユベシ、尋テ河内ノ

和泉、能登、安房

石城ノ石
背ノ國ハ
置キシハ
何帝ノ朝
ナルヤ右
左何帝ハ
祚ト爲セ
シハ何帝
朝ニ始

三郡ヲ割キ、和泉國ヲ置キ、越前ノ四郡ヲ割キ、能登ノ國ヲ置キ、上總ノ四郡ヲ割キ、安房ノ國ヲ置キ、常陸ノ十一郡ヲ割キ、六郡ヲ以テ石城ノ國ト爲シ、五郡ヲ石背ノ國ト爲ス、三年始メテ天下ノ百姓ヲシテ任ヲ右ニシ、職事主典己上ハ笏ヲ執ラシム、是レ元正帝ノ朝ニ於ケル治蹟ノ概要ナリ、

(四)

延喜天曆ノ治蹟ヲ述ヘヨ

先ツ延喜ノ治蹟ヨリ述ベシ、醍醐帝性慈仁ニシテ民ヲ愛ス、嘗テ寒夜ニ方リテ、親ラ御衣ヲ脱シテ、以テ民間ノ凍餒ヲ省ス、群臣奏對スル毎ニ、必ズ辭色ヲ和ケテ以テ之ニ接ス、嘗テ曰ク、人主己ヲ持スル嚴格、臣下何リ言ヲ盡スナ得ン、帝在位日久シ、國家無事、世以テ仁德帝ニ比ス、後世治ヲ言フ、必ズ延喜ヲ稱ス、延喜十四年、詔シテ直言ヲ求ム、式部大輔兼大學頭三好清行便宜十二事ヲ上ル、皆ナ時政ニ剴切ナリ、又少内記小野道風ヲ漢以來賢君名臣ノ言行ヲ清涼殿ノ南廂ノ粉壁ニ書セシム、帝ヨリ、朱雀帝ノ朝ヲ經テ村上帝ノ朝ニ至ルモ亦タ隆治ヲ稱ス、朱雀帝ハ性、柔仁、議者以テ時政寬ニ過クルト爲ス、關白藤原忠平聞テ之ヲ奏ス、帝曰ク、朕之ヲ先帝ニ聞ク、卿ノ先人嘗テ曰ク、政ハ琴瑟ヲ張ルガ如シ大絃急ナレハ則チ小絃絶スト、朕若シ嚴急ナラハ下民何リ堪ント、

海内太平ノ原因

海内太平ノ原因

(四)

菅原道眞ノ太宰府ニ貶セラレタル理由如何

醍醐帝、法皇ニ朱雀院ニ觀ヘ、相議シテ以爲ラク左右大臣並ニ朝政ヲ乘ル、統一スル所ナシ、宜ク道眞ヲシテ庶政ヲ關白セシムベシト、乃チ道眞ヲ召シテ密カニ其旨ヲ諭ス、道眞固辭シテ受ケズ、藤原時平常ニ道眞ノ寵任已レニ勝ルヲ嫉ミ、其密諭アルヲ聞クニ及ンデ、益々懼ヒズ、因テ道眞、帝ヲ廢シ、其女婿齊世親王ヲ立テンコトヲ圖ルト誣奏ス、帝之ヲ信シ、貶シテ太宰權帥ト爲ス、道眞貶所ニ至リ、文墨ニ託シテ自ラ遣ル、道眞嘗テ重陽ノ詩アリ云、去年今夜侍清涼。秋思詩篇獨斷腸。恩賜御衣今

道眞ノ貶セラル、遠因
道眞ノ貶セラル、理由
道眞ノ重陽ノ詩ヲ示セ

(四)

在此。捧持。每日。拜。餘。香。一。請。居。無。聊。雖。忠。愛。志。猶。厚。キ。コト。此。ノ。如。シ。

天慶ノ亂ヲ畧述セヨ

將門叛亂ノ原因

朱雀帝天慶二年、平將門叛ス、初メ將門攝政忠平ニ仕へ、其薦ニ因テ檢非違使ダランコトヲ求ム、忠平省セズ、將門憤怒シ、去テ東國ニ赴キ、相馬ノ里ニ居リ、其勇ヲ特ンデ常ニ攻剽ヲ事トシ、伯父常陸大掾國香ヲ殺シ、遂ニ關東ノ諸國ヲ陷レ、自ラ平親皇ト僭號シ、偽宮ヲ猿島ニ建テ、文武百官ヲ置ク、是ノ時藤原純友伊豫ニ掾タリ、任滿テ還ラズ、其海島ニ據テ掠略ヲ事トシ、以テ遙ニ將門ニ應シ、京師ヲ犯スヲ圖リ、潜カニ兵ヲ遣テ京師ヲ騷擾ス、時ニ藤原忠文ヲ征東大將軍ト爲シ、小野好古ヲ南海道追捕使ト爲シテ、東西ノ賊ヲ討タシム、忠文未タ至ラサルニ先子、國香ノ子平貞盛、藤原秀郷ト共ニ將門ヲ誅滅ス是ノ時純友ハ好古ニ敗ラレ、太宰府ニ走ル、此ニ至テ賊勢復タ振フ、好古擊テ之ヲ走ラス、純友逃レテ伊豫ニ還リ警固使橘遠保ノ爲メニ誅セラル、餘党尋テ平ク是ヲ天慶ノ亂ト謂フ

(四)

前九年ノ役トハ如何

天喜四年後冷泉朝陸奥ノ豪族安部頼時亂ヲ作ス、初メ頼時ノ父陸奥ノ大掾タリ、頼時其業

前九年ノ役ノ原因

ニ籍テ、諸部落ヲ略取シ、六郡ノ酋長ト爲リ、自ラ諸利ヲ私シテ、貢賦ヲ輸サズ、時ニ兵ヲ出シテ侵掠ス、國守藤原登任之ヲ制スル能ハズ、因テ源頼義ヲ陸奥守兼鎮守府將軍ト爲シテ之ヲ討タシム、會々大赦アリ、頼時大ニ喜ビ兵ヲ解テ降ル、頼義任滿子テ將ニ還ントス、頼時厚ク其軍ヲ犒フ、既ニシテ頼義阿久利河ニ宿ス、人アリ夜屬將藤原光貞ガ營ヲ斫ル、頼時ノ子貞任營テ婚ヲ光貞ノ妹ニ求ム、光貞鄙ンデ許サズ、故ニ怨ヲ報ユルナリ、是ニ於テ頼義貞任ヲ執ヘントス、頼時曰ク、貞任愚ト雖モ吾ガ子ナリ、何ゾ其死ヲ坐視スルニ忍ヒント、乃チ衣川關ニ據リ復タ叛ス、頼義大ニ怒リ、其子義家ト與ニ頼時ヲ擊テ之ヲ誅ス、尋テ貞任敗死シ、其弟宗任モ亦降ル、是ニ至テ陸奥悉ク平ク、此亂九年ヲ經テ平ク、故ニ前九年ノ役ト謂フ

(四)

後三年ノ役トハ如何

寛治元年堀河朝出羽ノ夷酋清原武衡家衡亂ヲ作ス、陸奥守兼鎮守府將軍源義家討テ之ヲ平ク、初メ義家ノ任ニ赴クヤ家衡清衡兄眞衡ト事ヲ以テ怨ヲ構ヘ、兵ヲ擧ケテ相攻ム、義家乃チ眞衡ヲ援ケテ家衡ヲ攻ム、利アラズシテ還ル、家衡ノ叔父武衡、兵ヲ起シテ家衡ヲ援ケ、金澤柵ニ據ル、義家將ニ金澤ヲ攻ントス、柵ヲ去ル數里、忽チ雁行ノ亂ル

後三年ノ役ノ原因

因リテ伏兵ノアルヲ覺リシ
武衛家衛ヲ誅セシハ誰ソヤ

、チ望ミ、乃チ伏兵アルヲ覺リ、兵ヲ遣シテ搜索ス、果シテ三十餘人ヲ獲タリ、盡ク之ヲ殺シ、遂ニ進ンテ柵ヲ圍ム、時ニ義家ノ弟義光新羅來リ援ク、義家大ニ喜ヒ、力ヲ戮セテ之ヲ攻ム、賊軍糧食盡キ、武衛家衛柵ヲ火キ、烟ニ乘シテ遁ル、義家追撃シテ二人ヲ誅ス、是ニ至テ奥羽悉ク平ク、此亂三年ヲ經テ平ク、故ニ後三年ノ役ト謂フ、

保元平治ノ亂ヲ語レ

先ツ保元ノ亂ヨリ述ベン、保元元年後白河左大臣藤原賴長、崇徳上皇ヲ挾テ亂ヲ作ス、是ヨリ先キ、白河法皇、藤原璋子美福門院ヲ宮中ニ養フ、頗ル物議アリ、既ニシテ之ヲ鳥羽帝ノ中宮ト爲ス、後チ皇子ヲ生ム、崇徳帝即チ是レナリ、故ニ鳥羽ノ崇徳ヲ視ルコト甚ダ薄シ、時ニ鳥羽帝嬖幸多ク、璋子最モ寵アリ、其生ム所ノ體仁ヲ以テ、崇徳ノ儲貳ト爲シ、逼テ位ヲ禪ラシム、是チ近衛帝ト爲ス、帝崩スルニ及ンデ、崇徳上皇將ニ重祚セントス、否ラザレバ長子重仁當ニ大統ヲ承クベシト、重仁ハ長ニシテ賢ナリ、中外モ亦タ望チ屬ス、璋子以爲ラク上皇、近衛帝ヲ呪詛セリト、因テ鳥羽法皇ニ勸メ、雅仁ヲ立ツ、是チ後白河帝ト爲ス、賴長、其兄關白忠通ト權ヲ爭フテ相鬪ク、寵チ法皇ニ失フニ及ンデ、上皇ニ結ヒ、復祚ノ謀ニ參ス、是ニ至リ法皇崩ス、賴長乃チ上皇ヲ奉シ白河ノ北殿ニ據リ

保元爭亂ノ原因
保元ノ亂ノ原由如何

諸將ノ去就ヲ述ヘ
保元爭亂ノ結果

平治爭亂ノ原因
平治ノ亂ノ原由ヲ問フ

平治爭亂ノ結果

テ兵ヲ徵ス、時ニ源爲義、其子賴賢、爲朝等ヲ率キテ至ル、然レドモ獨リ源義朝ノミ大内ニ赴ク、帝、義朝平清盛ニ命シ、夜ニ乘シテ之ヲ攻メシム、白河殿遂ニ陥リ、上皇如意山ニ奔リ、賴長矢ニ中テ斃シ、衆皆ナ潰散ス、既ニシテ上皇薙髮シテ仁和寺ニ入ル、帝、兵ヲ遣リテ之ヲ守リ、尋テ讃岐ニ遷ス、是チ保元ノ亂ト謂フ、
平治元年二條帝藤原信賴、源義朝亂ヲ作ス、初メ信賴寵チ上皇ニ受ク、勢チ恃ンデ驕肆ナリ、近衛大將ニ任センコトヲ請フ、上皇將ニ之ヲ許サントス、藤原通憲諫メテ之ヲ止ム、信賴聞テ之ヲ啣シ、病ト稱シテ朝セス、義朝嘗テ婚チ通憲ニ求ム、通憲之ヲ鄙テ許サズ、而シテ其子ノ爲メニ平清盛ノ女ヲ娶ル、勢威益々盛ナリ、故チ以テ義朝不平、居常快々タリ、信賴之ヲ知ル、因テ引テ黨ト爲ス、時ニ清盛熊野ニ如ク、其子重盛從フ、朝廷武將ニ乏シ、信賴乃チ義朝等ト、兵ヲ舉ケテ上皇ノ宮ヲ圍ミ、遂ニ上皇ヲ幽シ、帝ヲ遷ス、清盛變ヲ聞キ、重盛ト共ニ途ヨリ還ル、帝潛カニ清盛ノ弟幸シ、清盛、重盛ニ命シテ賊ヲ討タシム、重盛等信賴ヲ誅ス、義朝尾張ニ走リ、長田忠致ノ殺ス所ト爲ル、其他義平等モ亦タ捕斬セラル、特ニ義朝ノ第三子賴朝ノ死チ滅シテ、之チ伊豆ノ蛭島ニ流ス、是チ平治ノ亂ト謂フ、

(四)

治承ノ難ノ原因

成親等ノ密議發覺セシハ何レカ治承ノ難ノ結果

治承ノ難トハ何ゾ

治承元年高倉帝大納言兼右大將平重盛左大將三遷り權中納言平宗盛右大將ヲ兼ヌ、是ヨリ先キ權大納言藤原成親大將ニ補セラレシコトヲ望ム、然ルニ平清盛其子宗盛ニ超授ス、是ニ至テ成親憤怒シ、潜カニ檢非違使平康賴左衛門尉藤原師光等ト平氏ヲ滅ンコトヲ謀ル、藏人源行綱ヲ引テ黨與ト爲シ、屢々法勝寺ノ僧俊寛ガ鹿谷ノ別莊ニ會シテ事ヲ議ス、行綱成親ガ兵寡弱ナルヲ見テ、其事ノ成ラサルヲ懼レ、清盛ニ自首ス、清盛大ニ駭キ師光ヲ斬リ、成親ヲ備前ニ流シ、後子人ヲシテ之ヲ殺サシム、又俊寛ヲ鬼界島ニ放ツ、法皇モ亦其謀ニ與ルノ故ヲ以テ之ヲ幽セントス、重盛極諫シテ事遂ニ止ム、是ヲ治承ノ難ト謂フ、

○今古編

賴朝覇府ヲ開キシヨリ關原ノ戰ニ至ル

(四)

賴朝覇府ヲ開キシ有様如何

文治元年後鳥羽源義經平宗盛父子ヲ鎌倉ニ遷送ス、初メ義經ノ軍ニ在ルトキ、賴朝ノ節度ニ循ハズ、梶原景時、義經ト隙アリ之ヲ讒ス、故ヲ以テ鎌倉ニ入ルヲ聽サズ、北條時政ヲ遣シテ俘ヲ腰越ノ譯ニ受ケシム、義經狀ヲ作り、大江廣元ニ依リテ情ヲ陳ス、賴

賴朝ノ政略ハ如何

兵馬ノ權賴朝ニ歸シタルハ何レカ原因スルヤ

北條氏ノ執權タリシハ誰ニ始リシヤ

(四)

北條氏執權ト爲リシコトヲ畧叙セヨ

正治元年土御門源賴朝薨ス、其子賴家嗣ク、母政子政事ヲ聽キ、北條時政執權タリ、後子賴家病ム、政子、時政ト議シ、關西二十八國ノ地頭及ヒ總追捕使ヲ一幡ニ傳ントス、賴家之ヲ聞キ、外祖比企能員ト謀リ、時政ヲ滅ントス、時政、能員、一幡ヲ殺シ、賴家ヲ伊豆ノ修禪寺ニ幽シ、千幡ヲ立ツ、是ヲ實朝ト爲ス、元久元年ニ至リ、時政、賴家ヲ弑シ、又實朝ヲ廢シテ時政ノ女婿平賀朝雅ヲ立ント謀ル、政子實朝ヲ北條義時ノ第二避ケシノ時政ヲ伊豆ニ幽シ、義時ヲシテ代テ執權タラシメ、朝雅ヲ殺ス、是時ニ當リ、實朝優柔ニ

源氏何代ニシテ血統絶ヘシヤ
北條氏篡奪ノ原因如何

シテ外事ヲ問ハズ、獨リ北條氏幕府ノ事ヲ掌ル、建保元年順德帝シテ朝信濃ノ人泉親衡、賴家ノ子千壽ヲ奉シテ、北條氏ヲ滅サント謀ル、事覺ル、義時其黨與ヲ捕フ、承久元年、實朝拜賀ノ禮ヲ鶴岡祠ニ行フ、賴家ノ子公曉祠ノ別當タリ、實朝ヲ祠中ニ斬ル、義時之ヲ殺ス、賴朝霸府ヲ開キシヨリ、是ニ至ル三世四十一年、源氏ノ統絶ユ、初メ賴朝、弟範賴、義經ヲ殺シ、將府孤立シテ復タ強援ナシ、遂ニ斯ノ如ク北條氏篡奪ノ漸ヲ啓キシナリ、

(四)

承久變亂ノ原因

承久ノ變トハ何ゾ……………
仲恭帝位ニ即クヤ、本院御鳥羽仍ホ政ヲ院中ニ聽ク是時三上皇アリ後鳥羽上皇ヲ本院ト稱シ、土御門上皇ヲ中院ト稱シ、順德上皇ヲ新院ト稱ス、
常ニ鎌倉ノ擅横ヲ憤リ、王政ヲ復セント欲ス、因テ承久三年義時ノ官爵ヲ削テ之ヲ討ツ、中院及ヒ内大臣公繼之ヲ諫ム、聽カズ、遂ニ近畿ノ兵ヲ徵ス、北條義時之ヲ聞キ、其子泰時弟時房等ヲ將トシ、兵ヲ分テ、東海、東山、北陸ノ三道ヨリ進ンデ京師ヲ犯ス、官軍之ヲ美濃尾張ニ防ク、利アラズ、又之ヲ宇治瀬田ニ扼シ大ニ敗ル、泰時、京師ニ入り、義時ノ官爵ヲ復シ、罪ヲ藤原光親等ニ歸シテ之ヲ斬リ、尋テ帝ヲ廢シ、茂仁親王ヲ立テ、本院ヲ隱岐ニ、新院ヲ佐渡ニ、中院ヲ土佐ニ遷シ、雅仁賴仁二皇子ヲ但馬備前ニ徙ス、時房留テ京師ノ守護ト爲リ、府ヲ南北六波羅ニ置ク。是ヲ承久ノ變ト曰フ、

承久變亂ノ結果

(五)

高辨、泰時ヲ戒メシハ承久ノ變ニ原因ス

僧高辨北條泰時ヲ戒メタルハ如何ナル事ゾ……………
北條泰時京師ニ在リ、梶尾ノ僧高辨ノ名ヲ聞キ、往テ之ヲ訪フ、高辨泰時ヲ戒メテ曰ク、我國皇祚、無窮ニ傳ヘテ至貴至嚴ナリ、四海孰レカ敢テ背反スル者アラン、今官軍ニ抗シ、天子ヲ廢シ、上皇ヲ遷シ、公卿ヲ殺ス、上下爲メニ痛哭ス、古云フ、人、衆ケレバ天ニ勝テ、天、定レハ亦タ人ニ勝ツト、君將タ何ヲ以テ悖逆ノ罪ヲ償ントスルヤ、泰時之ヲ聞テ悚然タリ、

(五)

後醍醐帝ノ朝元弘ノ亂此ニ兆ス

兩黨迭立ノ議ヲ定ムトハ何ゾ……………
後二條帝立ツ、北條貞時奏シテ本院中院兩統迭ニ立ツノ議ヲ定メ限ル二十年ヲ以テスルノ制ヲ定メ、先ヅ後宇多ノ皇子ヲ立ツ、後二條帝是レナリ、初メ賴朝、近衛九條ノ二家ヲ以テ攝關ノ任ニ充ツ、時賴ニ至リ、一條、二條、鷹司ノ三家ヲ加ヘテ之ヲ五攝家ト稱シ、以テ藤原氏ノ勢ヲ分ツ、貞時其例ニ倣ヒ兩統迭ニ立ツノ策ヲ定ムト云フ、兩統迭立ノ議トハ即チ是レナリ、

(五)

元寇ノ變ヲ語レ……………
龜山帝ノ朝文永五年、元主忽必烈、高麗人ヲ介シ、通好ヲ求ム、朝廷之ヲ鎌倉ニ下シテ議

北條時宗
元使ニ對シ如何ナ
ル處置ヲ
施セシヤ

セシム、北條時宗以爲ラク書辭禮ナシト、乃チ御ケテ受ケズ、六年高麗人元使ヲ導テ對馬ニ來リ、前年ノ答書ヲ請フ、對馬ノ守拒テ納レズ、八年元使書ヲ奉シ復々通好ヲ求ム、時宗太宰府ナシテ之ヲ逐ヒ還サシム、後宇多帝文永十一年、元兵三万對馬ニ來リ寇ス、又轉シテ壹岐ニ寇シ、遂ニ二島ヲ取り、吏民ヲ殺シ、進テ太宰府ヲ犯ス、少貳景實之ヲ拒ク、元虜遂ニ去ル、建治元年、元使杜世忠等、長門ニ來リ、和ヲ講シ、必ス我報ヲ得ント欲ス、乃チ忠世等ヲ鎌倉ニ押送ス、時宗之ヲ龍口ニ斬ル、是歲北條實政ヲ九州ノ探題ト爲シ、沿海ノ兵備ヲ嚴ニシ、以テ元虜ノ來寇ニ備フ、弘安元年、元使來テ復々通好ヲ請フ、之ヲ博多ニ斬ル、四年、元將范文虎高麗人ヲ嚮導ト爲シ、大舉シテ來寇ス、我軍之ヲ壹岐、對馬ニ拒ク、利アラズ、遂ニ進テ肥前ヲ犯ス、探題實政之ヲ擊ツ、河野通有元將ヲ擒ニス、是ニ至テ元兵鷹島ニ退ク、七月風雨大ニ作り、激浪摩蕩シ、虜艦悉ク壞ル、溺死算ナシ、我兵勢ニ乘シテ掩擊シ、斬殺殆ント盡ク、此役虜兵十萬、脱カレ歸ル者僅カニ三人ノミナリト云フ、是ヨリ後子復々邊患アラズ、

弘安四年
元寇大敗
ノ有様ヲ
語レ

(五)

中興ノ原因

元弘ノ中興トハ如何

後醍醐帝、北條高時ノ專横ヲ憤リ、慨然トシテ蕩平ノ志アリ、高時之ヲ覺リ、遂ニ廢立ヲ議シ、元弘元年、二階堂貞藤等ナシテ兵ヲ率キテ西上セシム、護良親王諜知シテ、後醍醐帝ニ奏ス、帝夜神器ヲ奉シテ潜カニ笠置山ニ幸シ、楠正成ヲ召シ、興後ノ事ヲ託ス、正成感激シテ詔ヲ奉シ、歸テ赤阪ニ城キ、帝ヲ奉迎セントス、城成テ笠置陷ル、賊、帝ヲ六波羅ニ奉シ、量仁親王ヲ立テ帝ト稱ス、是ヲ光嚴院ト爲ス、正成赤阪城ニ據リ、勤王ヲ倡ヘ、數々賊軍ヲ破ル、二年三月、高時帝ヲ隱岐ニ遷ス、時ニ兒嶋高德駕ヲ奪ント謀ル、事成ラズ、是時、新田義貞、護良親王ノ令旨ヲ得、高時ヲ誅ス、既ニシテ車駕京師ニ還リ、新主ヲ廢シ、大位ニ復ス、北條氏陪臣ヲ以テ政權ヲ專ラニセシヨリ、百二十餘年ヲ經テ王政ニ復ス、

高時ヲ誅
セシハ誰
ナルヤ
中興ノ結果

(五)

楠正成死ヲ決セシ原因如何

左衛門尉檢非違使兼河内守 楠正成 湊川ニ戰死スル前、奏シテ曰ク、尊氏新ニ九國ヲ舉ケテ來ル、其衆キ雲ノ如シ、官軍傷殘寡弱、何ヲ以テ之ニ當ラン、其敗ル、ヤ必セリ今ノ計ヲ爲スモノナラバ、陛下復々叡山ニ幸シ、以テ其銳ヲ避ケ、義貞ヲ召還シ、而シテ臣ハ河内ニ入り、畿内ノ兵ヲ以テ水路ヲ斷チ、賊ノ糧竭キ兵散スルヲ待チ、前後夾ンデ

之ヲ攻メバ、一戰シテ破ル可キナリト、藤原清忠沮ム、正成慨然トシテ死志ヲ決シ、櫻井
驛ニ至リ、其子正行ニ諭スニ生死、賊ヲ滅スヲ以テシ、之ヲ河内ニ還シ、自ラ進ンテ、賊
ノ大軍ト血戰シ、遂ニ之ニ死ス、

(五)

四條畷ノ戰ヲ語レ

正平二年、楠正行、賊將細川顯氏ヲ畷田林ニ破リ、山名時氏六千騎ヲ以テ來リテ顯氏ヲ
援ク、正行之ヲ瓜生野ニ擊テ大ニ之ヲ敗ル、三年、高師直兵八萬ヲ率テ入寇ス、正行弟
正時ト吉野ノ行宮ニ詣リ奏シテ曰ク、先臣正成嘗テ微力ヲ以テ強賊ヲ挫キ、以テ先帝ノ
宸憂ヲ安ス、而ルニ海内再ヒ亂レ、逆賊四襲、是ニ於テ意ヲ決シテ國ニ殉シ、軀ヲ濠川ニ
捐ツ、臣時二十一、囑スルニ義旅ヲ糾合シ、國讎ヲ剪滅スルヲ以テス、今賊大舉シテ來リ
犯ス、是真ニ臣カ報効ノ秋ナリ、願クハ一ヒ天顏ヲ拜スルヲ得テ行カント、帝村上召見シ
テ之レヲ慰諭ス、正行俯伏涙ヲ垂レテ出ツ、衆ヲ率テ後醍醐帝ノ廟ニ謁シ、族黨ノ姓名
ヲ廟壁ニ題シ、然ル後子途ニ上ル、是ニ至テ正行、師直ト死ヲ決セント欲シ、自ラ三千騎
ヲ率テ四條畷ニ至リ、連戰連捷遂ニ師直ニ逼ル、相去ル數歩ニシテ、敵連リニ之ヲ射

正行吉野
ノ行宮ニ
詣リ如何
ナリ奏セ
シト

ル正行箭ヲ被ムル蝟ノ如ク、乃チ呼テ曰ク事畢レリ、賊手ニ墜ル勿レト、遂ニ正時ト相
ヒ刺シテ死ス、是ヲ四條畷ノ戰ト曰フ、

(五)

六分一氏トハ如何ナルコトゾ

山名氏清五州ノ守護ト爲リ、時氏既ニ死ス、其子師義、時義、義理、氏清等、功ヲ以テ山陽
南海等ノ守護ヲ分襲ス、是ニ於テ山名氏ノ領スル所十州ニ跨ル、世呼テ六分一氏ト曰
フ、蓋シ海内ヲ六分シテ其一ヲ有スルヲ謂フナリ、

室町執權ノ時如何ナル事アリシヤ

後小松帝、應永六年、大内義弘足利義滿ノ管領ニ抗スルヲ以テ亦タ自ラ安セス、嘗テ筑
紫探題今川貞世ニ説テ曰ク、方今ノ勢、弱キ者ハ誅セラル、強キ者ハ禍ヲ免ル、公宜ク我
及ヒ大友氏ト連結シテ、以テ自ラ強フスベシ、貞世聽カズ、義弘慚懼シ、貞世叛心アリト
義滿ニ讒シ、已レ代テ之ニ任ス、兵力日ニ強シ、時ニ鎌倉ノ管領滿兼自ラ將軍ト稱シ、百
事室町ニ准擬シ潜ニ異志ヲ蓄フ、義弘陰ニ謀ヲ通シ、東西相援ヒ、以テ義滿ヲ攻メント
欲ス、是ニ至テ土岐詮直、山名時清等尾張丹波ニ起リ、各々義弘ニ應ス、滿兼モ亦タ兵ヲ

應永ノ亂
ハ如何
原因

應永ノ亂ノ結果

率キテ武藏府ニ陣ス、義滿乃チ畠山基國、細川頼元、斯波義將以下ノ諸將ヲ遣リ、界城ヲ攻メ接戰長々久シ、遂ニ之ヲ拔キ、義弘ヲ斬ル、義弘既ニ亡ビ滿兼兵ヲ引テ鎌倉ニ還ル、義滿軍ヲ移シテ之ヲ討ント欲ス、上杉朝宗百方講和ス、義滿賜フニ足利莊ヲ以テシ其罪ヲ釋シテ問ハズ、之ヲ應永ノ亂ト曰フ、

嘉吉ノ亂ヲ語レ

嘉吉ノ亂ノ原因
嘉吉ノ亂ノ結果

嘉吉元年、赤松滿祐、足利義教ヲ殺ス、初メ義教滿祐ノ地ヲ分チ、其族貞村ニ與ヘントス、時ニ鎌倉既ニ平キ、諸將義教ヲ讐ス、滿祐モ亦タ其子教康ヲシテ義教ヲ其第二讐セシメ、遂ニ之ヲ殺シ、播磨ニ還リ、白旗城ニ據ル、山名持豐白旗城ヲ攻メテ之ヲ誅ス是ヲ嘉吉ノ變ト曰フ

應仁ノ亂ヲ問フ

應仁ノ亂ノ原因

應仁元年、京師大ニ亂ル、初メ義政其弟義視ヲ立テ嗣ト爲ス、誓テ曰ク、若シ男子ヲ生マバ必ス僧ト爲サント、細川勝元ニ命シテ之ヲ輔ケシム、既ニシテ子義尙ヲ生ム、其母富子僧ト爲スニ忍ビズ、義視ヲ廢セントシデ、山名持豐ニ謀ル、持豐乃チ畠山義就ヲ以テ己レカ援ト爲ス、是ニ於テ畠山義就政長ト御靈林ニ戰フ、政長敗ル、勝元大ニ兵ヲ徵シ政長ヲ援ク、其兵十六萬ト號ス、持豐モ亦タ兵十一萬ヲ擁ス、義視兩軍ニ往來シ和解ス

應仁ノ亂ノ結果

應仁ノ亂ノ原因
京師ハ加シテ何ナルハシヤ受ケ

レドモ聽カズ、遂ニ兵ヲ交エ、迭ニ勝敗アリ、其後持豐、勝元相尋テ死ス、兩軍皆ナ首領ヲ喪フ、然レドモ兩黨相結テ解ケズ、凡ソ九年ヲ經テ始メテ解ク、此役ヤ京師戰區ト爲リ、歷朝ノ典籍、文武ノ第宅皆ナ兵燹ニ罹リ、公卿四方ニ散シ衰亂極レリ、是ヲ應仁ノ亂ト曰フ

(五)

足利學校ノ由來ヲ問フ

足利學校ノ所在ヲ問フ
永享年間

足利學校ハ、古代日本大學校ノ紀念トモ稱ス可キモノニシテ、下野足利ノ地ニ現在セリ、其由來ハ、國學ノ遺制ナリト云フ者アレドモ、淳和帝ノ天長年間、紀元千四百八十四年即チ今チ距ル一千六十八年前、サンギヲノ、カムラ參議小野篁ノ創建ニ係ルト云フ、此說正確ナルモノ、如シ、其理由ハ現ニ同地ノ御拔野ト稱スル磯原ニ篁ノ住居セシ邸宅ノ遺蹟アリ、又校内ニ聖像ノ外、篁ノ木像ヲモ安置シアルヲ以テナリ、足利學校ハ當初御拔野ノ原中ニ建テラレシガ、渡良瀬川ノ洪水溢レテ、校舍書庫等ヲ浸スコト屢ナルヲ以テ、後チ今ノ足利市中昌平街ノ中央ニ遷セリ、篁ヨリ後チ、數百年ヲ經テ、朝綱稍ヤク衰へ、學政モ亦タ隨テ廢絶セリ、永享年間紀元二千九十年即チ今チ距ル四百六十二年前、カマクラ鎌倉ノ管領上杉憲實、此校ヲ中興

足利學校
ヲ中興シ
タルモノ
ハ誰カ
德川時代
足利學校
ノ有様如
何

明治維新
後足利學
校ノ有様
如何

足利學校
ニ藏スル
古書中如
何ナルモ
ノアリヤ

(五)

北條長氏
關東ヲ略
セシ有様
如何

シ、鎌倉圓覺寺ノ僧快元ヲ以テ座主ト爲シ、宋板ノ五經註疏ヲ彼邦ヨリ購求シ、其他古書若干部ヲ置キ、大ニ文學ヲ振興セリ、此ヨリ細流ノ管スル所トナリ、徳川幕府時代ニ至テハ、代々江戸金地院ニ附屬セリ、後子徳川氏大ニ文教ヲ獎勵シ、學田ヲ附シ、士民ヲ教育セシメシヲ以テ、一時其勢盛ナリシガ、後子其末世紀綱ト共ニ廢滅シテ、衰頽ノ極遂ニ一時聞ユルナキニ至レリ、明治革新ノ際、校務ヲ足利藩主戸田氏ニ委セラレ、塾ヲ起シ、弘ク士民ヲ教養ス、廢藩置縣ノ時ニ及ヒ、栃木縣ノ所管トナレリ、近年朝廷古跡保存ノ事ヲ縣廳ニ委シ、足利町ノ有志者ヲ撰テ保護員タラシメ、方今年々釋奠ノ略式ヲ行ヒ、且ツ傳來ノ古書珍寶等ヲ閱覽セシム、其古書中ニハ支那ニ於テスラ、既ニ廢滅ニ歸シタル經書少カラズ、現ニ先年支那政府ヨリ帝使ヲ派シテ騰寫セシメタル、皇儼論語義疏以下諸書ノ如キ、即チ其重ナルモノナリト云フ

武臣割據ノ有様如何

永正九年、北條長氏、伊勢長氏、北條氏ヲ胃伊豆ヲ略取シ勢ヒ益々熾ナリ、相摸ノ將士多ク欸ヲ送ル、獨リ三浦義同抗拒ス、因テ之ヲ岡崎ニ攻ム、義同戰フテ遂ニ死ス、時ニ兩上杉氏

隙アリ、戰鬪止マズ、長氏之ニ乘シテ關東ヲ并有セント欲ス、長氏豪邁ニシテ大志アリ、曾テ其徒六人ト東遊シ、今川義忠ニ依ル、足利茶々丸其父政知ヲ弑スルニ及ヒ、兵ヲ擧ケテ之ヲ誅シ、遂ニ伊豆相摸ヲ略ス、大永四年、長氏ノ子氏綱父ノ遺訓ヲ受ケ、益々攻戰ノ具ヲ修メ、相摸ヲ平定ス、是ニ至テ進テ上杉朝興ヲ江戸城ニ攻ム、朝興利アラズ、走テ河越城ニ據ル、氏綱兵ヲ江戸ニ置テ還ル、

大永十六年、武田晴信、村上義清ヲ信濃ニ擊ツ、義清力支フル能ハズ、越後ニ奔リ、長尾景虎ニ依ル、是ニ至テ景虎信濃ニ往キ、晴信ト海野ニ戰フ、晴信、沈毅ニシテ權變多シ、後子髮ヲ削リ信玄ト號シ、景虎ハ精悍ニシテ膽略アリ、亦タ髮ヲ削テ謙信ト號ス、

弘治元年、毛利元就、陶晴賢ヲ討テ之ヲ誅ス、初メ晴賢其主大内義隆ヲ弑シ、周防長門ヲ奪ヒ、大友義長ヲ迎ヘテ主トシ、威權ヲ專ニス、元就討賊ノ詔ヲ請ヒ、兵ヲ擧ケテ晴賢ヲ安藝ノ嚴島ニ誘ヒ、元就風雨ニ乘シ、一戰シテ大ニ之ヲ破リ、晴賢ヲ誅シ、遂ニ義長ヲ周防ニ攻メテ之ヲ殺ス、是ノ時ニ方リ、周防長門備後安藝等ノ諸國皆ナ元就ニ屬ス、尋テ山陰山陽十三州モ亦タ并有ス、

信玄謙信
ノ構兵如
何

毛利元就
陶晴賢ヲ
誅セシ有
様如何

桶狭ノ戰
ハ如何

川中島ノ
戰ヲ語レ

永祿三年、今川義元イマガハヨシモト大舉シテ尾張ヲ侵入、丸根マルネ、鷲津ウツツノ二城ヲ拔キ、桶狭ウツクサニ軍ス、織田信長オヂダノチカ夜雷雨ニ乘シ、突進シテ義元ノ中堅ヲ衝ク、營中大ニ驚キテ擾乱ス、毛利秀高モリヒデタカ進テ義元ヲ斬ル、是ヨリ信長ノ兵威大ニ振フ、

永祿四年、上杉謙信ウヘスギケンシン、信濃ニ入り、西條山サイジヤマニ陣ス、武田信玄タケダシンゲン、高阪昌信カサカサマサノブヲシテ之ヲ襲ハシメ、自ラ河カハ中島ナカシマニ軍シテ、其歸路ヲ斷ントス、謙信之ヲ諜知シ、直チニ自ラ信玄ノ營ヲ斫リ、信玄敗レ走ル、謙信大刀ヲ拔テ來リ迫ル、信玄馬ヲ躍セテ河ヲ乱リ、將ニ逃ントス、謙信モ亦タ河ヲ乱リ、刀ヲ擧ケテ之ヲ撃ツ、信玄刀ヲ拔クニ暇アラズ、麾扇ヲ以テ之ヲ扞ク、扇折ル、又撃テ其肩ヲ斫ル、信玄ノ部將原大隅ハラオホスミ之ヲ救ヒ、槍ヲ擧ケテ謙信ヲ縱ク、中ラズ、誤テ其馬首ヲ打ツ、馬驚キ、跳テ湍中ニ入ル、信玄創ヲ被リ、纒カニ免ル、尋テ兵ヲ收メテ退ク、是ヲ河中島ノ戰ト曰フ、

(六)

諸國ニ割據セシ群雄ノ重ナルモノハ誰々ナルヤ……

群雄各々一方ニ割據シ、其最モ大ナル者ハ、九州ニ大友オホトモ、島津シマツ、伊東イトウアリ、四國ニ、細川ホソカワ、河野カワノ、長曾我部チヨウソウカベアリ、伊勢ニ北畠キタハタ、參河遠江ニ徳川トクガハ、安房ニ里見サトミ、陸奥ニ伊達イダテ、南部ナンボ、出羽

ニ最上モカミ、越前ニ朝倉アサクラアリ、畿内ハ則チ三好ミヨシ、島山ハタケヤマノ諸族之ヲ分領ス、

(六)

織田信長京畿ヲ鎮定セシ大畧ヲ問フ……

織田信長オヂダノチカハ信秀ノブヒロノ子ナリ、英武ニシテ明決メイケツ、今川義元イマガハヨシモトヲ桶狭ウツクサニ討チ、武威海内ニ振フ、遂ニ正親町帝ノ密旨ヲ奉シテ京畿ヲ平ケ、皇宮ヲ修メ、是ヨリ先キ京師キョウジ頻年兵革ヘンネンベイカクヲ曆テ皇宮大ニ壞ル、租稅ヲ省キ、徭役ヲ免ジ、貧民ヲ賑シ、朝野以テ安シ、帝信長ヲ從二位ニ叙シ右大臣ニ任ス、信長二十餘國ヲ并セ、海内ヲ混一セントス、其志ヲ遂ケズシテ、逆臣明智光秀アケチミツヒデノ爲メニ弒セラル、

(三)

聚樂ノ盟トハ如何ナルモノゾ……

天正十六年、後陽成帝ゴヨウセイ、太上天皇タウテント關白クワンパク豐臣秀吉トヨトミヒデユキガ聚樂シウラク第二幸ス、諸皇子及ヒ宗室妃嬪皆ナ從フ、秀吉内大臣ノウチ信雄ノブタカ、大納言家康イノヤス等ヲシテ先驅ヲ爲サシメ、而シテ自ラ百官ヲ率キテ後乘ヲ爲ス、即日享禮ヲ行ヒ、明日信雄、家康、及ヒ列侯以上ヲ召シ、御前ニ盟ハシム、載書ニ曰ク、凡ソ同盟ノ人、カチ王事ニ竭シテ、敢テ怠ルコトアル莫ク、關白ノ令スル所、敢テ違フコトアル莫レ、斯ノ盟ヲ渝フル所ノ者ハ、明神之ヲ罰殛セン、車駕駐マル五日ニシテ宮ニ還ル、是ヲ聚樂ノ盟ト曰フ、

聚樂第
行幸ノ
如何

(三)

豊臣秀吉明ノ冊書ヲ裂キシハ如何ナル理由ゾ

慶長元年、明使楊方亨、沈惟敬來リテ秀吉ニ見ヘ冊書冕服ヲ奉ス、秀吉喜ンデ謂ヘラク
 我が威遠キニ及ヒ、今殊域ニ王タルヲ得タリト、乃チ冕ヲ戴キ服ヲ著シ、徳川家康以下
 ナシテ各々明ノ衣冠ヲ著ケシメ、以テ禮ヲ行フ、既ニ罷ム、秀吉僧承允ヲ召シテ冊書ヲ讀
 マシム、小西行長冊文ノ惟敬カ言ト齟齬センコトヲ恐レ、是ヨリ先キ惟敬、行長ト冊封ノ事ヲ議
 謂ラク秀吉當ニ明國ニ王タルベシト、因テ之ヲ罔蔽セント欲ス、乃チ私カニ承允ニ囑シテ曰ク、
 因テ秀吉ニ懲懲シテ和ヲ許サシム、文中或ハ諱ム可キ者アラバ、則チ之ヲ諱メト、承允聽カズ、讀ンデ爾ヲ封シテ日本國王
 ト爲スト曰フニ至テ、秀吉色ヲ變シ、立コロニ冕服ヲ脱キ之ヲ抛チ、冊書ヲ扯裂シテ曰
 ク、日本ハ吾カ掌握ニ在リ、王ト爲リ覇ト爲ル、髯虜何ソ與カラン、且ツ吾ニシテ王タラ
 バ、天朝ヲ如何セント、乃チ行長ヲ召シ、明使ヲ併セテ之ヲ戮セントス、承允救解シ、直
 チニ明使ヲ逐フ、

(四)

關原ノ戰ハ如何

徳川家康
總政ノ有

慶長四年徳川家康、伏見ニ居リ、政務ヲ掌ル、其威權最モ盛ナリ、初メ豊臣秀吉ノ薨スル

様ヲ略叙
セヨ

關原ノ戰ノ
原因

ニ臨ミ、五大老、三中老ヲ置キ、幼主秀頼ヲ輔翼セシメ、又石田三成、増田長盛、淺野長
 政、田前玄以、長束正家ヲ五奉行ト爲シ、謀議ニ參與セシム、秀頼猶ホ幼ニシテ諸將各々
 自立ノ志アリ、因テ家康ヲ忌憚ス、三成長盛等ト相謀リ、家康、前田利家ヲ離間ス、加藤
 清正、淺野幸長等三成ノ姦惡ヲ惡ミ、之ヲ誅セント請フ、家康諭シテ之ヲ止メ、三成ノ職
 ナ罷メ、其邑澤山ニ屏居セシム、三成窃カニ謀テ上杉景勝ニ通ジ、家康ヲ陸奥ニ誘ヒ、東
 西夾撃センコトヲ約ス、景勝會津ニ據リテ入觀セズ、家康諸將ヲ率キ、往テ伐ツ、未タ至
 ラズ、三成列侯ヲ誘ヒ、兵ヲ擧ケ、以テ家康ヲ撃ツ、家康師ヲ班シ、大ニ關原ニ戰ヒ、遂ニ
 三成等ヲ誅ス、時ニ後陽成帝使ヲシテ家康ヲ勞ス、是ニ於テ天下悉ク徳川氏ニ歸ス、是
 チ關原ノ役ト曰フ、

關原ノ戰ノ
結果

(五)

豊公時代ノ牢獄ハ今ニ存セシモノアリヤ

大坂府監獄支署内ニ、十疊敷ノ監房五房列ナル一棟アリ、是レ天正年間、石川五右衛門
 ナ入獄セシムル爲メ建築セシモノニシテ、三百餘年ノ久シキ日月ヲ經過シタルヲ以テ、
 用材全ク黒色ニ變スト雖モ、樑ニテ造リシモノナレバ、極メテ堅牢ナリ、此獄ハ、堺縣設

置アリテ、奈良ヲ管轄セシ時、奈良ヨリ堺ニ移セシモノナリト云フ、

將軍紹襲ノ有様ヲ問フ

源氏將軍ハ如何

源氏將軍ハ、三世凡ソ三十二年ニシテ即チ

源賴朝義朝ノ三男、賴家賴朝ノ長子、實朝賴朝ノ次子、是レナリ、

攝家將軍ハ如何

攝家將軍ハ二世ニシテ即チ

藤原賴經左大臣通家ノ子、賴嗣賴經ノ次子、是レナリ、

親王將軍ハ如何

親王將軍ハ四世ニシテ承久ノ亂後、北條氏執權ト爲リ、即チ

宗尊親王後醍醐帝ノ第四子、惟康親王宗尊親王ノ子、久明親王後深草帝ノ皇子、守邦親王久明親王ノ子、是レナリ、

又親王將軍ハ如何

親王將軍ハ四世ニシテ在職各三年、即チ

護良親王後醍醐帝ノ第五子、成長親王後醍醐帝ノ第三子、是レナリ、

足利氏將軍ハ如何

足利氏將軍十五世ニシテルソ二百三十八年ニシテ、即チ

足利尊氏源義康ノ裔、義詮、義滿、義持、義量、義教、義勝、義政、義尙、義植、義澄、

織田氏ハ如何

織田氏ハ二世ニシテ將軍ヲ廢シ天下ニ號令スルソ六年、即チ

右大臣織田信長平清盛ニシテ一世ノ孫、秀信、是レナリ

豐臣氏ハ如何

豐臣氏ハ三世ニシテ織田氏ニ代リ天下ノ權ヲ執ルルソ十五年、即チ

關白豐臣秀吉世系詳ナラズ父ヲ彌助ト曰フ、秀次、秀頼、是レナリ

○近世篇

家康覇業ヲ定メシヨリ、慶喜ノ大政奉還ニ至ル

德川氏ノ覇業ヲ問フ

後陽成帝、慶長八年、詔シテ家康ヲ以テ征夷大將軍ト爲シ、右大臣ニ進ム、是ヨリ先キ、

家康石田三成ヲ關原ニ誅シ、天下兵馬ノ權德川氏ニ歸シ、諸侯悉ク江戸ニ會ス、十一年

家康三十八藩ニ命シテ皇宮ヲ改修シ、應仁以來王室衰微シ、信長嘗テ之ヲ修ス、其規模ヲ擴メ、舊觀ニ復ス、尋テ

諸侯ニ課シテ、江戸駿府ノ二城ヲ修シ又名古屋ニ城ク、十四年諸侯ニ命シテ、其邸第ヲ

江戸ニ置キ、妻子ヲ留メテ質ト爲シ、隔年ヲ以テ交代セシム、元和元年、家康其子秀忠入

朝シ、關白二條昭實ト議シ、朝廷式十七條、武家式十三條ヲ定メ、又諸侯ニ命シテ、城壘

ノ要地ニ非サルモノヲ毀タシメ、宗族勳舊ヲ各地ニ封シ、郡代代官ヲ置キ諸藩ト犬牙交

家康天下ニ覇タルノ原因
家康、三成ヲ誅セシ以後如何ナル政略ヲ施セシヤ

家康ノ人ト爲リハ如何

錯シ、城番ヲ京師ニ、城代ヲ伏見ニ、奉行ヲ奈良長崎佐渡ニ置ク、治國ノ規模大ニ定ル、家康沈毅ニシテ大畧アリ、禍亂ヲ戡定シ、上、皇室ヲ尊ヒ、下、士民ヲ愛ス、又文學ヲ崇ヒ、毎ニ儒士ヲ延テ治道ヲ諮問シ、遂ニ太平ノ業ヲ開クヲ得タリ、

(充)

徳川家康ノ耶蘇教ヲ嚴禁セシ所以ヲ問フ……………

花井石見守ハ、元ト卑賤ノ生レナリ、性姦智ニ長シ、小鼓ヲ撃ツニ妙ヲ得タリ、始メ大久保忠隣ニ事フ、佞媚ヲ以テ寵セラル、後家康命シテ、越後少將忠輝ニ給事セシム、性算術ニ敏ナリ、新田ヲ川中島ニ開墾シ大ニ民利ヲ開キ、家康其才幹アルヲ聞キ、祿万石ヲ賜ヒテ佐渡金山奉行トス、又忠輝ノ後見ヲ兼ヌ、忠輝時ニ越後六十萬石ヲ領ス、忠隣ニ請フテ大久保ノ姓ヲ冒ス、幾クモナクシテ食邑二万石ニ至リ、此ニ於テ始メテ非望ノ志ヲ起シ、天下ヲ併吞スルノ逆謀ヲ懷キ、窃カニ切支丹ノ餘徒ヲ集メ、志ヲ葡萄牙國ニ通シ、内外相應シ、諸大名ヲ滅絶シテ、日本ヲ領スルノ志アリ、葡萄牙國大ニ之ヲ歡ビ、互ヒニ款ヲ通シテ相謀ル所アリ、石見守逆謀日々長シ、時機ヲ見テ發スル處アラントセシモ、遂ニ病ニ罹テ死セリ、後其妾遺金受領ノ事ニ關シ、其子隼人ニ逼リシモ、應セズ、憤怒

耶蘇教ヲ嚴禁セシ原因

シテ家康ニ訴ヘ、石見守ガ倉庫ノ地中ニ藏スル所ノ金銀アルコトヲ述ブ、是ニ於テ家康其倉庫ノ地中ヲ堀テ之ヲ檢セシムルニ果シテ石庫アリ、之ヲ啓ケバ金銀積ンテ山ヲ爲セリ、始メテ佐渡金山ノ金ヲ私セシコトヲ知レリ、又別ニ一函アリ之ヲ啓キシニ葡萄牙國ト日本ヲ滅シ、己レ國王ト爲テ永ク葡萄牙ノ屬國タランコトヲ約セシ密書アリ、家康大ニ驚キ、其子隼人ニ命シテ屠服セシメ、而シテ其家ヲ滅ス、是ニ於テカ大ニ切支丹耶蘇教ヲ恐レ、遂ニ其播布ヲ嚴禁セシムルニ至リシナリ、

(充)

島原ノ亂トハ如何……………

島原ノ亂ノ原因
前二軍ヲ督セシハ
誰ガ後ニ軍ヲ督セシハ
誰カ
結果
島原ノ亂ノ

(半)

慶安ノ變トハ何ゾ……………

明正帝寛永十四年、小西氏ノ餘黨、益田時貞、森宗意等天主教ヲ奉シテ、愚民ヲ煽誘シ、肥前島原ニ據テ亂ヲ作ス、徳川家光、板倉重昌ヲシテ、西海諸藩ノ軍ヲ督シテ、之ヲ攻メシム、賊善ク防戦シテ遽ニ抜ク能ハズ、家光松平信綱ヲ遣リ、代リテ軍ヲ督セシム、翌年重昌、急ニ城ヲ攻メ、身矢石ヲ冒シ、遂ニ戦死ス、信綱等長圍ヲ築キ、月ヲ閲シテ城ヲ拔ク、時貞以下男女三万七千人ヲ殺戮シ、事漸ク平ク、是ヲ島原ノ亂ト曰フ、

慶安四年、德川家光薨ス、駿河ノ人由井正雪之ヲ時トシ、其黨丸橋成純マルハシナリズミ、金井半兵衛等カチキハンベイト亂ヲ謀ル、成純ハ江戸ニ、半兵衛ハ大坂ニ、正雪ハ駿府ニ在リ、日ナ期シテ一時ニ三都ヲ焚キ後光明帝ヲ挾ンテ、兵ヲ擧ケントス、事覺ハレ、正雪及ヒ半兵衛ハ自殺シ、成純ハ縛ニ就キ、其他黨與皆ナ刑ニ服ス、是ヲ慶安ノ變ト曰フ、

(七)

德川家光ノ人ト爲リヲ問フ

家光ノ略如何

家光英果ニシテ膽略アリ、嘗テ諸侯ヲ城中ニ召シテ曰ク將軍薨ス、卿等若シ天下ニ宰タラント欲セバ、宜ク弓箭ヲ以テ授受スベキノミ、又諭シテ曰ク、我祖卿等ノ力ニ因テ禍亂ヲ定メ、且ツ同輩タルヲ以テ待ツニ宜禮ヲ以テス、予ハ生レナガラニシテ將軍タリ、自ラ先世ト同シカラズ、故ニ今ヨリ卿等ヲ遇スルハ譜代ト同一ニセン、卿等若シ心ニ快トセサレバ、國ニ就キ熟慮シテ、二年ノ間ニ去就ヲ決スベシト、諸侯皆ナ畏服ス

(七)

德川吉宗ノ中興ヲ語レ

吉宗ノ政如何

享保元年、德川吉宗紀伊ヨリ入テ統ヲ繼ギ、政權ヲ握ルニ及ビ、精ヲ勵マシ、治ヲ謀リ、節儉ノ政ヲ行ヒ、積年ノ奢風ヲ矯メ重臣專横ノ弊ヲ革メ、投書匱ヲ評定所及ヒ京師大阪

吉宗ハ如何ナル人ニ治道ヲ問ヒシヤ
此時學者ハ誰々ナルヤ
新井白石ハ如何ナル書ヲ著ハセシヤ
我國洋書ヲ始テ讀ミシ者ハ誰カ

(七)

德川氏諸侯ヲ封建シタル有様如何

ニ置キ、民ノ告訴ヲ受ク、時ニ大岡忠相オオオカタカサネ、越前江戶町奉行エチマアキヨウタリ、訟獄大ニ治マル、吉宗又萩生茂卿ウモトキ物祖ヲ延見シ治道ヲ問フ、茂卿爲メニ政談ヲ著ハス、其徒太宰純、服部元喬、山縣孝孺等皆ナ當時ニ著ハル、此時伊藤仁齋イトウジンサイモ亦タ京師ニ在リ、博學鴻儒ヲ以テ著ハル、寛保二年、青木敦書アヅフミヲシテ諸國ノ遺書ヲ搜索セシム、敦書遂ニ長崎ニ至リ、蘭學ヲ研究ス、是ヨリ前キ、新井君義アラキキヨシ白石心ヲ外事ニ用キ、萬國紀聞、采覽異言等ヲ著ハス、是ニ至リ、敦書ヲシテ蘭學ヲ學ハシム、我國洋書ヲ讀ムノ濫觴トス、後子醫方、數理、天文地理ノ譯書續出ス、故ヲ以テ文學頗ル開ケ、海内大ニ治ル、是ヲ吉宗ノ中興ト曰フ

德川家康、海内ヲ戡定シ、諸侯ヲ封建スルヤ、親疎新舊ヲ錯綜シ、以テ相制セシム、而シテ本宗ノ領地ヲ全國諸侯ノ間ニ置キ、郡代、代官ヲシテ内外ノ權力ヲ保タシム、此時全國ノ租額三千万石アリ、本宗其三分ノ一ヲ領ス、其親族ヲ三家、家門ト稱シ、臣下ヲ譜代ト稱シ、舊諸侯ヲ外様ト稱シ、萬石以上ヲ大名ト稱ス、大藩十八家之ヲ國主ト稱シ、次ヲ城主、領主ト稱ス、十萬石以上二十餘家アリ、每家又支封ヲ封建ス、其數合セテ二百八十

藩アリ

(七) 德川氏時代ノ三家トハ何レヲ指スヤ又舊諸侯及ヒ家臣ノ大ナル者ヲ
擧ケヨ

三家トハ尾張、紀伊、水戸ヲ云フ、舊諸侯ノ大ナル者ハ、前田、島津、伊達、細川、黒田、淺野、備前、因幡ノ兩池田、毛利、鍋嶋、藤堂、蜂須賀、山内、佐竹、南部、上杉ニシテ、家臣ノ大ナル者ハ井伊、榊原、酒井、大久保、本多等ノ數氏ナリ、

(七)

外交ノ狀況ヲ畧叙セヨ

弘化三年、亞米利加合衆國ノ軍艦、浦賀ニ來リ、通商ヲ乞フ、幕府許サズ、嘉永二年英吉利ノ軍艦モ亦タ浦賀ニ來リ、露西亞國モ使ヲ遣シ、共ニ通商ヲ乞フ、許サズ、是ニ於テ、幕府沿海ノ諸藩ニ命シ大ニ海防ヲ嚴ニセシム、六年合衆國ノ水師提督ペリー軍艦四艘ヲ率キテ浦賀ニ來リ國書ヲ呈シ、修好貿易ヲ乞フ、幕府、明年ヲ期シ、商議セントテ約シ、ペリー去ル、尋テ露西亞ノ使節復タ長崎ニ來リ隣好ヲ修メ、樺太ノ境界ヲ定メ及ヒ互市ヲ通ゼンコトヲ乞フ、幕府諭シテ之ヲ歸ス、安政元年、ペリー再ヒ本牧ニ來リ、兵

弘化三年、亞米利加合衆國ノ軍艦、浦賀ニ來リ、通商ヲ乞フ、幕府許サズ、嘉永二年英吉利ノ軍艦モ亦タ浦賀ニ來リ、露西亞國モ使ヲ遣シ、共ニ通商ヲ乞フ、許サズ、是ニ於テ、幕府沿海ノ諸藩ニ命シ大ニ海防ヲ嚴ニセシム、六年合衆國ノ水師提督ペリー軍艦四艘ヲ率キテ浦賀ニ來リ國書ヲ呈シ、修好貿易ヲ乞フ、幕府、明年ヲ期シ、商議セントテ約シ、ペリー去ル、尋テ露西亞ノ使節復タ長崎ニ來リ隣好ヲ修メ、樺太ノ境界ヲ定メ及ヒ互市ヲ通ゼンコトヲ乞フ、幕府諭シテ之ヲ歸ス、安政元年、ペリー再ヒ本牧ニ來リ、兵

安政年代ニ來リシハ何レノ國ナルヤ

外交ニ關スル勅語ヲ示セ

萬延年代外交ノ有様如何

黨獄ノ起リシ原因

(七)

安政ノ獄トハ何ソ

幕府ノ勅裁ヲ經ズシテ、條約ヲ五國ニ結ベルヤ、志士群起シ、大ニ尊王攘夷ノ說ヲ唱フ、水戸ノ安島信立、越前ノ橋本左内等、奏スル所アリ、孝明帝、密旨ヲ德川齊昭ニ賜ヒ、列藩ト議シ、國是ヲ一定シ、朝廷ヲ翊戴シ、且ツ幕府ヲ輔翼セシム、是ニ於テ幕府老中ヲ京師

ニ遣リ、志士ヲ捕ヘ、江戸ニ致シ、青蓮院尊融法親王、左大臣近衛忠熙、右大臣鷹司輔熙、内大臣三條實萬等ヲ幽シ、遂ニ齊昭ニ逼テ勅書ヲ奉還セシメ、更ニ齊昭等ヲ禁錮シ、信立、左内等ヲ斬リ、其他流竄禁錮セラル、者極メテ多シ、是ヲ安政ノ獄ト曰フ

(七)

櫻田、坂下ノ變トハ何ゾ

櫻田ノ變ノ原因 井伊直弼ヲ要殺セシ有様如何
萬延元年、水戸ノ佐野光明、井伊直弼ノ專横ヲ憤リ、薩摩ノ有村兼清等ト、之ヲ櫻田門下ニ要殺ス、是ノ日大雪、直弼輿ニ乘シ、從者前後ヲ擁シテ行ク、人アリ事ヲ訴フルノ狀ヲ爲シ、直弼ノ輿ニ近ク、又數人アリ、俄カニ前驅ヲ襲撃ス、從者皆ナ之ニ赴キ、輿側人ナシ、訴フル者其隙ニ乘シ、直弼ヲ殺シ、其首ヲ提ケテ去ル、諸士脇坂氏ノ邸ニ自首シ、書ヲ出シテ、直弼ノ五罪ヲ陳ス、後子皆ナ刑セラル、是ヲ櫻田ノ變ト曰フ、井伊直弼ノ死後、安藤信正專ラ事ヲ執リ、猶ホ舊ニ依ルヲ以テ、萬延二年、浪士三島三平等六人、信正ヲ坂下門ニ狙撃シ、其背ニ傷ク、從者拒キ闘ヒ、六人ヲ斃ス、各一書ヲ懷ニシ斬姦趣意書ト曰フ、幕府其黨ヲ索ム、坐スル者頗ル多シ、是ニ至テ幕府ノ威柄大ニ衰フ是ヲ坂下ノ變ト曰フ、

坂下ノ變ノ原因

(六)

長藩幕府ト隙ヲ生セシ原因如何

文久三年、毛利慶親朝命ヲ奉シ、攘夷ノ端ヲ啓ント欲シ、亞米利加ノ船舶ヲ馬關ニ砲撃ス、是ニ於テ亞米利加、佛蘭西、和蘭、ノ軍艦連合シテ、馬關ニ逼リ其砲臺ヲ砲撃ス、藩兵利アラズ、其後幕府、使ヲ長門ニ遣リ、擅ニ兵端ヲ開クヲ詰ル、長藩服セズ、其使者ヲ拘留ス、是ヨリ幕府長藩ト隙ヲ生ス、

近世將軍ノ紹襲ヲ問フ

徳川氏將軍軍ハ如何

徳川氏將軍ハ十五世凡ソ二百六十五年ニシテ慶喜政繼ヲ奉還ス即チ
徳川家康ノ裔 源義重 禰忠 家光 家綱 綱吉 家宣 家繼 吉宗 家重 家治 家齊
家慶 家定 家茂 慶喜 是レナリ

○今世篇

大政維新ヨリ帝國議會ノ開設ニ至ル

大政維新トハ何ゾ

慶應二年、征夷大將軍徳川慶喜、奏請シテ、大政ヲ奉還ス、是ヨリ先キ、前土佐藩主山内豊信書ヲ慶喜ニ遣リ、政柄ヲ解クコトヲ從應シ、且ツ其臣後藤元燁、及ヒ薩藩小松清廉、

幕府大政ヲ奉還セシ狀況如何

(五)

大政ヲ奉還
セシ原因
源賴朝以
來何年ニ
シテ王政
ニ復セシ
ヤ

官制ノ更
革如何

大久保利通等モ亦タ慶喜ニ説テ之ヲ勸ム、慶喜其説ヲ容レ上奏シテ大政ヲ奉還セリ、是ニ至テ、慶喜又將軍職ヲ辭ス、源賴朝覇府ヲ鎌倉ニ開キシヨリ、殆ンド七百年、室町氏以來政權武門ニ歸スルコト、五百餘年、徳川家康府ヲ江戸ニ開キシヨリ、二百六十餘年、是ニ至リ政權復タ王室ニ歸ス、故ニ稱シテ維新ト云ヒ又復古ト云フ、大政王室ニ歸スルヤ、詔シテ攝政、關白、征夷大將軍、及ビ議奏傳奏、守護職、所司代等ノ官ヲ廢シ、新ニ總裁、議定、參與ノ三職ヲ置キ、熾仁親王有栖川宮ヲ以テ總裁ト爲シ、嘉彰親王仁和二條實美、岩倉具視、及ビ島津忠義、山内豐信等ヲ議定ト爲シ、西郷隆盛、大久保利通寺宮後藤元輝等ヲ參與ト爲ス、尋テ木戸孝允モ亦タ參與ト爲ル、是ヲ官制ノ更革ト爲ス、

(二)

五事ノ誓言トハ何ゾ

明治元年、天皇公卿諸侯ヲ率ヰテ、天地神祇ヲ祭り、五事ヲ誓フ、曰ク廣ク會議ヲ興シ、萬機公論ニ決ス、曰ク上下心ヲ一ニシ、盛ニ經綸ヲ行フ、曰ク官武一途、庶民ニ至ルマデ、各其志ヲ遂ゲ、人心ヲシテ倦マザラシム、曰ク舊來ノ陋習ヲ破リ、天地ノ公道ニ基ク、曰ク智識ヲ世界ニ求メ、大ニ皇基ヲ振起ス、即チ是レナリ、

(三)

王師東征ノ事ヲ畧述セヨ

慶喜答保
等如何ナ
ルコトヲ
議セシヤ
王師東征ノ
原因

慶喜等ノ
處分ハ如
何

軍艦ヲ率
井箱館ニ
據リシノ
誰ガ

明治元年、旨ヲ徳川慶喜ニ傳へ、内大臣ヲ辭シ、且ツ封土ヲ分納シ、以テ政府ノ經費ニ供セシメント欲ス、慶喜、松平容保等議シテ曰ク、近日ノ朝議、聖斷ニ出ルニ非ス、一二大藩、政權ヲ專ニスルニ在リト、乃チ上書シテ遽ニ京師ヨリ大坂ニ赴ク、是ニ至テ、慶喜討薩ノ表ヲ草シ、使ヲ發シ、麾下及ヒ會津、桑名等ノ兵ヲ帶ビテ入京セシム、薩長土等諸藩ノ兵、之ヲ伏見鳥羽ニ邀ヘ撃チ、大ニ之ヲ破ル、慶喜以下江戸ニ走ル、乃チ慶喜等ノ官爵ヲ削リ、熾仁親王ヲ拜シテ征東大總督ト爲ス、時ニ 天皇將ニ親征セントシテ、車駕大坂ニ幸ス、是時ニ當リ、官軍東海、東山、北陸ヲ徇へ、先鋒既ニ品川驛ニ至ルヤ、慶喜謝罪ノ狀ヲ陳ス、因テ三道ノ進討ヲ止メ、慶喜ヲ水戸ニ幽シ、江戸城ヲ收メ、軍艦銃器ヲ沒シ、家臣ヲ郭外ニ屏ケ、其入犯ノ謀ニ與スル者ヲ罰セシム、然ルニ榎本武揚等、軍艦八隻ヲ率キ箱館ニ據リ、大鳥圭助歩兵數千ニ將トシ、脱シテ會津ニ走ル、會津藩主松平容保其四疆ヲ固守ス、其他徳川氏ノ臣ニシテ、慶喜謝罪ノ議ニ服セサル者、兵ヲ募リ彰義隊ト稱シ、公現法親王ヲ擁シテ東叡山ニ據ル、官軍撃テ之ヲ破ル、敗兵會津ニ走ル、官軍、

王師東征ノ結果

○白河平鴻越後ノ三道ヨリ進ミ、連戰連勝、數月ニシテ容保等皆ナ降ル、年ヲ踰エテ箱館モ亦タ平ク、

(三)

廢藩置縣ノ事ヲ問フ

全ク郡縣ノ制トナリシハ明治何年ナク定ル、
奥羽既ニ平キ、皇紀四方ニ光被シ、海内復タ王師ニ抗スル者ナシ、乃チ明治二年、詔シテ藩主二百七十六人ヲ以テ知藩事ト爲シ、公卿諸侯ノ稱ヲ廢シ、總テ華族ト爲シ、其臣下ノ者ハ悉ク士族ト爲ス、明治四年ニ至リ、遂ニ藩ヲ廢シ縣ヲ置キ、各藩ノ知事ヲ東京ニ召シ、親諭シテ其職ヲ罷メ、全國ヲ盡シテ三府七十二縣ト爲ス、是ニ於テ郡縣ノ制全ク定ル、

(四)

左ノ事業ハ明治何年ニ始リシヤ

- (一)新楮幣ノ製造
- (二)新聞紙ノ發行
- (三)造幣局ノ設置
- (四)燈臺ノ設置
- (五)電信線ノ架設
- (六)郵便法ノ制定
- (七)鐵道ノ布設
- (八)國立銀行ノ創設
- (九)太陽曆ノ頒行
- (十)博物館ノ設置

新ニ楮幣ヲ製シタルコトヲ問フ
新聞紙ノ發行ハ如何
造幣局ノ設置ハ如何
燈臺ノ設置ハ如何
電信線ノ架設ハ如何
郵便法ノ制定ハ如何
鐵道ノ布設ハ如何
銀行ノ創設ハ如何

- (一)明治元年、新ニ楮幣ヲ製シテ之ヲ行フ、太政官札ト稱ス、通用十三年ヲ限レリ
- (二)明治二年、新聞紙ヲ發行スルコトヲ許シ、新聞紙條目ヲ定ム
- (三)明治二年、造幣局ヲ大阪ニ設ケ、精金ヲ以テ新貨ヲ鑄造シ金貨ヲ以テ本位ト爲シ、銀貨ヲ定位ト爲ス
- (四)明治二年、燈臺ヲ相摸ノ觀音崎ニ設ケ、爾後港灣崎岬、船舶經過ノ地ニ徧ク之ヲ設ケ、航客ヲシテ覆溺ノ患ナカラシム、
- (五)明治二年、電信線ヲ東京橫濱間ニ架シ、尋キテ大阪神戸間ニ設ケ、爾後相延キテ、五畿八道ニ及フ、
- (六)明治四年、洋制ヲ參酌シ郵便法ヲ定メ、兩京大阪間ニ信書遞送ノ便ヲ開キ、尋キテ長崎ニ及ホシ、遂ニ五畿八道ニ達ス、
- (七)明治五年、鐵道ヲ東京橫濱間ニ布設シ、尋キテ神戸大阪間ニ設ケ、爾後諸縣ニ及ヒ、運輸往復ノ便益々興ル、
- (八)明治五年、三井商會ノ請ヲ許シ、第一國立銀行ヲ東京ニ創設セシム、乃チ銀行條例

大陽曆ノ
何行ハ如

ヲ頒チ、士民ノ設立ヲ許ス、爾後府縣相尋キテ銀行ヲ建ツ、

(九)明治五年、詔シテ大陽曆ヲ行フ、乃チ神武帝即位ノ年ヲ以テ紀元ト爲シ、明治五年十二月三日ヲ以テ六年一月一日ト爲ス、推古帝ノ朝、始メテ曆日ヲ用キシヨリ、曆朝沿襲シテ太陰曆ヲ行フコト、一千二百六十餘年、是ニ至リ、西洋ノ曆法ニ依リ、大陽曆ヲ撰ミテ之ヲ頒ツ、

博物館ノ
何設置ハ如

(十)明治八年、博物館ヲ東京ニ設ケ、千堂萬類ヲ陳シ、衆庶ナシテ縱覽セシメ、以テ知識ヲ開發セシム、

(五)

五爵ヲ制スルトハ如何ナルコトゾ

叙爵ノ人
員ハ如何
其夫人ノ
禮遇ハ如
何

五爵トハ公侯伯子男ヲ云フナリ、明治十七年、華族勳爵及ヒ中興ノ業ヲ替シ、國ニ大功アル者ニ授ク、即チ華族九條道孝以下十一人ヲ公爵ニ廣幡忠禮以下二十四人ヲ侯爵ニ、中院通富以下七十三人ヲ伯爵ニ、福岡孝悌以下三百二十二人ヲ子爵ニ、長岡護美以下七十四人ヲ男爵ニ叙シ、而シテ其夫人モ亦均シク禮遇ヲ受ケシム、舉世之ヲ榮トス、

(六)

臺灣ノ役ハ如何

臺灣征討ノ
原因

臺灣征討
ノ有様如
何

明治七年、臺灣ヲ征ス、初メ臺灣ノ生蕃、我カ琉球藩、及ヒ小田縣ノ漂民ヲ掠殺ス、臺灣ハ清國ノ屬島ナルヲ以テ、外務卿副島種臣ヲ清國ノ北京ニ差遣シ、條約ヲ交換シ、兼子テ臺灣ノ事件ヲ處理セシム、清國生蕃ヲ以テ化外ト爲ス、是ニ於テ、陸軍中將西郷從道ヲ臺灣事務都督ト爲シ、舟師ヲ率キテ之ヲ征セシム、我カ師臺灣ニ至ルヤ、諸酋爭テ降ル然レドモ獨リ牡丹蕃服セズ、乃チ其巢窟ヲ焚キテ酋長ヲ斬ル、因テ諸蕃悉ク降ル、既ニシテ清國違言アリ、參議大久保利通ヲ特命全權辦理大臣ト爲シ、清國ニ遣リ、其事ヲ審判セシム、清國遂ニ我ガ臺灣ヲ征討セシヲ義舉ト爲シ、五十萬兩ヲ我ニ償ヒ、生蕃ヲ戒飭シテ害ヲ航客ニ加ヘザルコトヲ約シ、尋テ利通從道等歸朝ス、

(七)

朝鮮ノ變ハ前後幾回アリシヤ

第一變ノ原
因朝鮮ノ第
一變ハ如何
第一變ノ結
果

第一變ハ明治八年我ガ雲揚艦、清國牛莊ニ航セントシ、薪水ヲ朝鮮ノ江華島ニ求ム、守兵ノ砲撃スル所ト爲リ、應戰シテ其城ヲ拔ク、是ニ於テ明治九年、陸軍中將黑田清隆ヲ特命全權辦理大臣ト爲シ、朝鮮ニ派遣シテ其事ヲ理セシム、朝鮮罪ヲ謝シテ欸服ス、乃チ修好條規、貿易規則ヲ交換ス、尋テ朝鮮使節ヲ來聘シ隣好ヲ修セシム、

朝鮮ノ第二變ハ如何ニ變ハル

第二變ハ明治十五年、朝鮮ノ暴徒我ガ公使館ヲ襲フ、是ヨリ前、辨理公使花房義質朝鮮漢城ニ駐在シ、勸ムルニ富國強兵ヲ以テス、國王大ニ喜ビ、我ガ陸軍士官ヲ聘シ、西洋兵式ヲ以テ衛兵ヲ訓練セシム、然ルニ士民鎖國ヲ唱フル者物議囂然タリ、老姦ノ徒之ニ乘シテ愚民ヲ煽動シ、公使館ヲ襲撃ス、義質隨員二十二人ト拒戦ス、朝鮮政府敢テ來リ救ハズ、義質圍ヲ破テ仁川ニ走リ、遂ニ英國ノ測量船ニ托シテ馬關ニ歸リ狀ヲ奏ス、乃チ義質ヲシテ兵ヲ率キテ漢城ニ至リ、其罪ヲ問ハシム、朝鮮惶駭其罪ヲ謝シ、乃チ五十五萬圓ヲ償ヒ亂民ヲ捕ヘ巨魁ヲ嚴刑ニ處ス、後チ其四十萬圓ヲ朝鮮ニ還附ス、舉世之ヲ義トス、

第二變ノ結果

第三變ノ原因

朝鮮ノ第三變ハ如何

第三變ノ結果

第三變ハ明治十七年、朝鮮ニ内亂アリ、大臣數名之ガ爲メニ殺サル、因テ國王護衛ヲ我カ公使竹添光鴻ニ請フ、光鴻兵ヲ率キテ王宮ヲ警備ス、暴徒襲ヒ來テ火ヲ縱ツ、清兵モ亦之ニ應ス、我兵衆寡敵セズ、困ナ衝テ公使館ニ還ル暴徒來リ攻ム、光鴻難チ仁川ニ避ケ、其狀ヲ奏ス、乃チ外務卿井上馨ヲシテ往テ其罪ヲ問ハシム、朝鮮大ニ其罪ヲ謝シ金十一萬圓ヲ償ヒ暴徒ヲ罰シ、公使館ヲ新築シ、修信使ヲ來聘シ、以テ前事ヲ謝ス、尋テ參議伊藤博文ヲ清國ニ遣シ、朝鮮ノ變、日清交渉ノ專ヲ處理セシム、

(六)

西南ノ亂ヲ語レ

西南暴動ノ原因

議伊藤博文ヲ清國ニ遣シ、朝鮮ノ變、日清交渉ノ專ヲ處理セシム、

西南ノ亂ハ如何ケ月ヲ經テ平キシヤ

(五)

明治十八年官制改革概畧ヲ述ヘヨ

十八年官制ノ改革ハ太政大臣、左右大臣、參議、各省ノ卿等ヲ廢シ、更ニ内閣以下十省ヲ置キ、大臣各々其事ニ任シ、而シテ内閣總理大臣之ヲ統ブ、又内大臣及ヒ宮中顧問官ヲ置キ、樞密院ヲ設ケ、遞信省ヲ置テ工部省ヲ廢シ、大ニ舊體ヲ一變ス、是レ官制改革ノ概畧ナリ、

(七)

明治昭代ノ衣食住ハ如何

舊風ヲ一變
セシハ海外
交通ニ原因
ス

社會ノ進化ニ伴フテ、衣食住ハ往昔ト其趣キナ異ニシ、先ツ衣服ノ如キハ和洋ヲ混交シテ用ヒ、食物ノ如キ從來ハ穀類ヲ專用セシモ、外交ノ頻繁ナルニ隨ヒ、鳥獸肉ヲ混食シ、家屋モ亦タ煉瓦又ハ石造ノモノ年ヲ逐フテ多キニ至リ、都會繁華ノ地ニ至テハ殆ンド舊風ヲ一變セシモノ、如シ、

(九)

我國開闢以來未曾有ノ盛典トハ何ゾ

憲法發布
ノ事ヲ述
ヘヨ

明治二十二年二月十一日、紀元二千五百四十九年紀元節ヲ以テ 天皇皇靈ニ告祭シ以テ憲法ヲ發布ス、凡ソ七章、七十六條、又皇室典範凡ソ十二章、六十二條ヲ定ム、又議院法、衆議院議員選舉法、貴族院令並ニ會計法ヲ領ツ、是ノ日國事犯人、集會條例違反者、新聞條例違反者、其他出版條例、保安條例、爆發物取締罰則違反者等、凡テ破廉耻罪ヲ除クノ外ハ悉ク大赦ノ恩命ヲ被リ、イハクヲトモミ シマヅヒサミツ オホク ボトシミチ マウリヨシチカ ナベシマチホマサ ヤウウチトヨノキ岩倉具視、島津久光、大久保利通、毛利慶親、鍋島直正、山内豐信、木戸孝允等ノ墓ニ告ゲ、又西郷隆盛、藤田彪等ニ位ヲ贈リ、八十歳以上ノ者ニ金ヲ賜フ、天皇國家ノ隆盛ト臣民ノ福祉ヲ増進スルヲ欣ヒ、大憲ヲ制定シテ、臣民ノ權利財産ヲ保護ス、命降ルノ日、衆庶、聖意ヲ感戴シ驩慶ノ聲都鄙ニ溢レタリ、

大赦ノ恩
命ヲ被ム
リシ犯人
ノ種類ハ
如何
爵位ニ爲
リシ者ハ
誰々ナル
ヤ

(九)

教育勅語ハ明治何年ニ下シタマヒシヤ

諸テ教育勅
語ヲ捧讀セ
ヨ

我勅聖文武ナル 天皇陛下ハ、深ク教育ニ 大御心ヲ用ヒサセ給ヒ、 皇祖皇宗ノ遺訓ニ基キ、明治二十三年十月三十日ヲ以テ、 勅語ヲ下シタマフ、其文ニ曰ク、
朕惟フニ我カ皇祖皇宗、國ヲ肇ムルコト宏遠ニ、徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ、
我カ臣民、克ク忠ニ、克ク孝ニ、億兆心ヲ一ニシテ、世々厥ノ美ヲ濟セルハ、此レ我カ國體ノ精華ニシテ、教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス、
爾臣民、父母ニ孝ニ、兄弟ニ友ニ、夫婦相和シ、朋友相信シ、恭儉己レヲ持シ、博愛衆ニ及ホシ、學ヲ修メ、業ヲ習ヒ、以テ智能ヲ啓發シ、徳器ヲ成就シ、進テ公益ヲ廣メ、世務ヲ開キ、常ニ國憲ヲ重シ、國法ニ遵ヒ、一旦緩急アレハ、義務公ニ奉シ、以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スベシ、
是ノ如キハ、獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラズ、又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン、
斯ノ道ハ、實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ、子孫臣民ノ俱ニ遵守スベキ所、之ヲ古今

ニ通シテ、謬ラス、之ヲ中外ニ施シテ、悖ラス、
朕爾臣民ト俱ニ、拳々服膺シテ、威其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ、
ト是ニ於テカ、教育ノ大本定マレリ、

(三)

始メテ帝國議會ヲ開キシハ明治何年ナリシヤ……………

帝國議會
開院式ハ
如何

代議士ヲ東京ニ召集シ、始メテ帝國議會ヲ開キシハ實ニ明治二十三年十一月ナリキ、是
ノ時 天皇賢所ヲ祀リ、開院式ヲ行ヒタマフ、貴族院議長伊藤博文、衆議院議長中島信
行以下各議員、聖旨ヲ奉體シ議事ニ從フ、是ニ至テ、我國開闢以降、二千五百有餘年、
始メテ立憲政体ト爲リ、國運益々進ミ、皇基益々鞏シ、

日本歴史試験問題答案畢

○附錄

○備考

甲寅戊午
ノ歲

●神武帝甲寅ノ歲十月、親ラ舟師ヲ帥キテ日向ヲ發シ、戊午ノ歲二月、航シテ浪速ニ抵リ
タマウトアリ、甲寅ノ歲ハ、紀元前七年ニテ、戊午ノ歲ハ紀元前三年ナリ、

紀元

●明治五年、神武帝即位ノ年ヲ以テ紀元ト爲ス、我國ノ紀元ハ、西洋紀元前六百六十年、支
那周惠王ノ十七年ニ該當ス、

豐受大神

●豐受大神ハ即チ豐宇氣毘賣神ナリ、

周芳豐前
ノ賊

●景行帝ノ朝、周芳ノ賊ハ鼻垂、耳垂、麻剝、土折、猪折、ナリ又豐前ノ賊ハ、青白ニ蜘蛛、打
獲、八田、國摩呂、三蜘蛛ナリ、

日高見國

●日高見國ハ未タ詳ナラズ、延喜式ニ陸奥國桃生郡日高見社アリ蓋シ其地方ナランカ

大寶ト改
元セシ原
因

●文武帝ノ朝、對馬ヨリ金ヲ貢ス、因テ元ヲ改テ大寶ト爲ス、是ノ後或ハ祥瑞災異ニ就テ
元ヲ改ム、年號ノ制連綿絶エズ、

伊治城

●桓武帝ノ朝、關東諸國ノ民、九千人ヲ伊治城ニ遷ストアリ、伊治ハ日本紀ニ伊寺水門ニ

五十三
年
間
海
内
無
事

將
門

國
記

三善清
行
革
命
ノ
議

清行、道
眞ニ貽
ル
書

作ル、今ノ石卷ナリト云フ

●淳和、仁明、文徳、清和帝ノ四朝、紀元千四百四十四年ヨリ、千五百三十七年ニ至ル、五十二年間、海内無事、藤原氏ノ權勢日ニ熾ナリ、

●將門ハ上總ノ介高望ノ孫ニシテ、鎮守府將軍長持ノ子ナリ、相馬小二郎ト稱ス、勇悍人ニ過キ、最モ騎射ニ工ナリ、

●皇極四年、蘇我蝦夷誅セラル時、天皇紀及ヒ國記珍寶悉ク燒ク、船史惠尺、火中ニ入り、燼餘ノ國記ヲ取り、之ヲ中大兄皇子ニ奉レリ、

●醍醐帝、昌泰三年、文章博士三善清行革命ノ議ヲ上リテ曰ク、以爲ラク明年辛酉、帝王ノ革命、君臣剋賊ノ運ニ當ル、宜ク周易革卦ノ體ヲ鑒シテ、戒嚴警衛スベシト、

●三善清行、菅原道眞ノ禍ニ罹ルヲ慮リ、書ヲ貽テ曰ク、選變革ニ當ル、將ニ干戈ヲ動ントス、凶ニ遭ヒ禍ヲ衝ク、未タ誰タルヲ知ラズト雖モ、弩ヲ引テ市ニ射ル、薄命ノ者亦タ當ニ之ニ中ルベシ、天數推察シ難シ、人事知亮スルニ足ル、宜ク其足ルヲ知り、其分ヲ察シテ、意ヲ烟霞邱壑ニ縱マ、ニスベシト

清行ノ封
事

●醍醐帝詔シテ直言ヲ求ム、式部大輔兼大學頭三吉清行、便宜十二事ヲ上ル、其略ニ曰ク我邦上古、上ニ仁、下忠、租稅薄ク、風俗厚ク、時漸ク澆漓ニシテ、賦歛年ニ増シ戶口日ニ減ス、欽明帝ノ世、佛法初メテ傳リ、推古帝以後稍ク盛ニ、崇尚風ヲ成シ、上公卿ヨリ、下士庶ニ至リ、競フテ資産ヲ捨テ、以テ佛圖ヲ營ス、寺塔ヲ造ラザル者ハ人與ニ齒スル莫キニ至ル、降リテ天平ニ及テ、多ク大寺ヲ創シテ莊嚴美ヲ盡シ、遂ニ七道ヲシテ國コトニ二佛寺ヲ建テシム、名ケテ國分寺ト曰フ、民田ヲ廢シ、公稅ヲ廢ス、桓武帝都ヲ遷ス者再ヒ、土木繁ク興リ、賦役大ニ重シ、仁明帝位ニ即キ、尤モ奢靡ヲ好ミ、房寢麗美ニシテ宴樂飲淫シ、府帑空竭ニシテ、徵求盡ルナシ、貞寬中ニ應天門及ヒ大極殿竝ニ災アリ、修復期年、費モ亦夥シ、今ノ時ニ當リ、國家ノ經入、往昔十分ノ一ニ非ルナリ、寬平中ニ、臣備中守ト爲リ、管内邇麻呂ノ郷アリ、風土記ヲ案スルニ、皇極帝ノ時、勝兵二萬ヲ出ス、天平中ニテ、課至丁纔カニ千九百餘アリ、臣任ニ到ル時、老丁二人、正丁四人、中男三人ノミ、今諸ヲ彼地ノ官吏ニ訪ヘハ、則チ曰ク、一丁アルナシト、衰弊ノ速カナル此ノ如シ、此ヲ以テ之ヲ推セバ、天下ノ虛耗知ル可シ、陛下萬古ノ興衰ヲ照、宵衣旰食、惠テ民庶ニ降

ス、興復寧リ期ス可キナカランヤト、

●村上帝、大内記菅原文時ニ敕シテ、封事ヲ上リテ、闕政ヲ言ハシム、文時三事ヲ條陳ス、其一奢侈ヲ禁ス、畧ニ曰ク、方今風俗奢侈ヲ極メ、官途ノ交、私門ノ謁ニ至ルマデ、相競フテ力ヲ致サ、ル靡シ、故ニ貧キ者ハ固ヨリ資ヲ失ヒ、富ム者モ亦産ヲ傾ク、蓋シ上ノ爲ス所、下必ス之ニ趨ク、昔吳王劍客ヲ好ミ、百姓癯瘠多シ、楚王細腰ヲ好ミ、宮中餓死多シ、夫レ餓ト癯トハ、人ノ惡ム所、然レ臣尙ホ是ノ如シ、願フニ朝廷苟モ奢ヲ禁セバ、天下必ス儉ニ從ハン、其二賣官ヲ停ム、畧ニ曰ク、方今授任正シカラザルニ非ス、而シテ財ヲ以テ人ヲ官ニシ、國用ヲ助クル者アリ、功勞ノ臣自カラ退キ、聚斂ノ徒爭ヒ進ム、昔漢ノ明帝、公主子ノ爲メニ郎ヲ求ムルヲ許サズ、而シテ錢十萬ヲ賜フ、官其人ニ非レハ、則チ害百姓ニ及フヲ以テナリ、降リテ桓靈ニ及テ、乃チ初メテ官ヲ賣ル、漢業以テ衰フ、是レ鑑ス可キナリ、其三ハ遠人ヲ懷ルヲ請フ、帝皆ナ嘉納ス、

●古事記三卷ハ太朝臣安萬侶撰ス、日本書記三十卷ハ舍人親王撰ス、

●大寶年間ニ唐制ヲ折中シテ製造シタル度量衡ハ共ニ二様アリ地ヲ測ルノ尺度、銀ヲ量

ルノ權衡、穀ヲ量ルノ量ハ皆ナ大ナルヲ用キ、其他ハ小ナル者ヲ用ヒシナリ、

●靺鞨、又靺鞨ト曰フ、高麗ノ東北ニ在リ、蝦夷ト隣ス、天平寶字六年、建ル所ノ多賀城ノ

碑ニ靺鞨國ヲ去ル二千里ト曰フ是レナリ、

●渤海ハ本ト靺鞨ノ一部ニシテ、高麗ニ屬スル者、高麗滅テ唐ニ屬シ、靺鞨ノ號ヲ去リ、渤海ト稱ス、其王武藝ニ至リ、唐ト難ヲ構ヘ、始メテ本邦ニ朝貢ス、

●大江廣元ノ議頼朝ノ採用ニ曰ク、所在ニ判官藏人ヲ捕竄ス、安ソ亂レサルヲ得ン、亂起ル

每ニ輒チ兵ヲ遣リテ攻撃セバ、人々奔命ニ疲レ、民力竭キン、如カズ諸國ニ守護ヲ置キ、莊園ニ地頭ヲ置キ、以テ之ニ備ヘンニハ、則チ郡國皆兵備アリ、何ノ反亂カ患フルニ足ラント、判官ハ義經ヲ謂ヒ、藏人ハ行家ヲ謂フナリ、

●舊史ニ土居通増、得能通綱ヲ通治、通言ト記スルモノ多シ、明治十七年贈位ノ典アリ、通増、通綱ハ修史館ノ調査ニ係ル、

●兒島高德ハ備前ノ人、備後守範長ノ子ナリ、備後三郎ト稱ス、夙ニ好テ書ヲ讀ム、後醍醐帝西狩スルニ當リ、微服シテ御館ニ至リ、詩ヲ題シテ其志ヲ表ス其詩ニ曰ク、天莫空ニ

上宮太子ノ讖文

建武元年、後醍醐帝ニ獻セシ駿馬

豐臣秀吉征韓ノ決心

藤原肅

勾踐コウケン之時、非レ無レ范蠡ハンライ。

●元弘元年、楠ノスノキマサシゲ正成天王寺ニ軍ス、寺舊ト上宮太子ノ讖文ヲ藏ス、正成僧ニ請フテ之ヲ觀ル、文ニ曰ク、東魚來テ四海ヲ吞ミ、日西天ニ没スル、三百七十日、西鳥來テ東魚ヲ食ヒ、海内一ニ歸ス、

●建武元年、盤谷高貞エンヤタカサダ駿馬ヲ後醍醐帝ニ獻ス、帝以テ祥瑞ト爲ス、藤原藤房フシハラフジフサ、秕政ヲ陳シテ切諫シテ曰ク、此馬適タ軍國ノ急ヲ告ルノ資ト爲スニ足ルノミト、後子尊氏タカウヂ反スルニ及テ、帝、人ヲ遣リ、此馬ニ乘リ義貞ヲ尾張ニ召ス、半道ニシテ斃ル、

●豐臣秀吉嘗テ韓及ヒ明ヲ併吞スルノ志アリ、數々朝鮮王ニ諭シ、我兵ヲ導テ明ヲ伐タシム、報セズ、是ヨリ先キ姫淺井氏男鶴松ツルマツヲ生ム、秀吉絶タ之ヲ愛ス、鶴松病テ死ス、秀吉悲哀月ヲ累子テ樂マズ、一日清水閣ニ登リ、西望シテ曰ク、大丈夫當ニ武ヲ萬里ノ外ニ用フベシ、何ソ自ラ悵鬱セン、乃チ還リ大ニ諸將師ヲ會シ、征韓ヲ議ス、衆敢テ異議スルモノナシ、乃チ兵ヲ發ス、

●藤原肅ハ惶窩ト號ス、心ヲ程朱ノ學ニ究メ、大ニ發明スル所アリ、是ヨリ先キ學者訓詁

ヲ事トス、程朱ヲ崇信スルハ此ヨリ始マル

德川氏大藩ノ待遇

●德川家康イヘヤスヒデタダ、秀忠ノ時、大藩江戸ニ觀スルモノ將軍之ヲ郊迎ス、家光ニ至リ之ヲ待ツコト君臣ノ禮ノ如クセリ

松平定信

●松平定信サダノブハ、陸奥白河ノ城主タリ、後子伊勢ノ桑名ニ移ル、樂翁ト稱ス、才、文武ヲ兼ヌ、老中ノ職ニ在レヤ、名儒古賀コガ、尾藤孝肇オシノノクニヒコ、柴野邦彦チノノキナヒコヲ薦メ、幕府ノ歸臣ト爲シ、又和學所ヲ江戸ニ置キ、塙保巳ハナホキイチ一ヲシテ之ヲ管セシメ、大ニ文教ヲ振興シ、砲臺ヲ相摸、上總ニ築キ、武備ヲ嚴ニス、

高山正之

●高山正之タカヤママサユキハ彦九郎ト稱ス、倜儻ニシテ擊劍ヲ好ミ、常ニ朝廷ノ衰替ヲ慨歎シ、幕府ノ爲ル所ヲ憤ル、京師ニ入ル毎ニ三條橋ニ至リ、地ニ跪キ遙ニ天闕ヲ拜ス、嘗テ等持院トウヂイデンニ至リ、足利尊氏ノ像ヲ鞭チ、其罪惡ヲ數ム、慷慨淋漓聲淚共ニ隨フ、

林子平

●林子平ハヤシシヘイ幼ニシテ機警、既ニ長シテ學ヲ嗜ム、好テ四方ニ周游シ、過ル所古昔英雄戰爭ノ跡ヲ觀テ、其攻守勝敗ノ由ル所ヲ考フ、而シテ其最モ注意スル所ハ邊防ニ在リ、

德川光圀ノ修史

●水戸藩主德川光圀トクガハミツツクニハ家康ノ孫賴房ヨリフサノ次子ナリ、修史ノ體裁筆削皆ナ親ク史臣ト商榷シ、

大日本史二百四十六卷ヲ作ル、精確醇正ナリ、世ニ正史ト稱ス、又禮儀類典凡ソ五百十卷アリ、該博詳密ナリ、

大石義雄等ノ處分

●大石義雄等、故主淺野長矩ノ仇ヲ復スルヤ、幕府其罪ヲ議シ、未タ決セズ、林信篤曰ク、君

父ノ爲メニ仇ヲ報スルハ大義ナリ、之ヲ誅セバ何ヲ以テ臣子ヲ獎勵セン、物茂卿曰ク、

林氏ノ論固ニ善シ、未タ時機ニ達セズ、今之ヲ宥セバ、淺野、上杉二氏將ニ難ヲ構ントス、

是レ天下ノ禍ヲ招クナリト、議遂ニ決ス、

公使ヲ外國ニ遣ルノ始メ

●萬延元年、幕府外國奉行村垣範正、新見正興ヲ米國ニ遣ル、公使ヲ外國ニ遣ルハ是ヲ始

メトス、

軍艦歐米ニ航スルノ始メ

●我邦ノ軍艦歐米諸洲ニ航セシハ、萬延元年、勝義邦米利堅ニ航セシヲ始メトス、

七卿

●文久三年、長藩七卿ヲ挾ンデ藩地ニ還ル、其七卿トハ、三條實美、三條西季知、東久世通

禧、四條隆調、錦小路頼徳、壬生基循、澤宣嘉ノ七卿ヲ云フ、

水戸ノ二黨

●元治元年ノ頃水戸藩ニ藤田結城ノ二黨アリ、藤田黨ハ彪ノ子、信ヲ魁トシ、尊攘ヲ主ト

ス、結城黨ハ市川弘美ヲ魁トシ、佐幕ヲ主トス、時人之ヲ目シテ藤田ヲ正黨ト爲シ、結城

ヲ姦黨ト爲ス、

王師東征ノ際ハ熾仁親王ヲ征東大總督ト爲シ、西郷隆盛、林通顯參謀タリ、岩倉具視ヲ

以テ東山道先鋒總督兼鎮撫使ト爲シ、橋本實梁ヲ東海道先鋒總督兼鎮撫使ト爲シ、高倉

永祐ヲ北陸道先鋒總督兼鎮撫使ト爲シ、三道並ヒ進ム、

成辰ノ役東國諸藩ノ去就

●成辰ノ役ニ會津、米澤、仙臺、盛岡、莊内、二本松、三春等十七藩合從シテ官軍ニ抗ス、獨

リ久保田、弘前、天童、數藩ノミ王事ニ勤ム、

維新以後家祿ノ制

●維新ノ際、諸藩ノ封土ヲ返還スルヤ、其歲入十分ノ一ヲ以テ家祿ト爲シ、廩米ヲ給ス、士

族モ亦秩祿ヲ受クル差アリ、明治十一年ニ至リ、其制ヲ廢シ、公債證書ヲ以テ一時ニ給

與ス、其金額一億七千四百三十一萬九千餘圓ニシテ、歲ニ息ヲ附ス、六年ノ後、毎歲抽籤

法ヲ用ヰテ貨幣ニ兌換シ、三十年ヲ限リテ償完ス、

佐賀ノ二黨

●明治六七年ノ頃、佐賀ニ二黨アリ、曰ク征韓、曰ク憂國、而シテ征韓黨ハ江藤新平ヲ迎ヘ

テ首領ト爲シ、島義勇モ亦憂國黨ノ長ト爲ル、義勇嘗テ秋田縣令タリ、新平職ヲ辭スル

ニ當リ、言ヲ鎮撫ニ托シ佐賀ニ歸リ、遂ニ黨ヲ立ツ、

廢藩置縣
後ノ地租
改正

●大政一新、藩ヲ廢シ縣ヲ置キ、尋テ地租ヲ改正シ、條令ヲ布キ、地券ヲ頒テ、地價百分ノ三ヲ以テ租率ト爲シ、地方ノ公費ヲ賦スル、地租三分ノ一二過ルコトヲ禁ス、後子又詔シテ地價百分ノ二分五釐ト爲シ、地方公費ハ五分ノ一二過クルコト勿ラシム、

十

附錄畢

明治二十五年七月十三日印刷
明治二十五年七月十五日出版

定價金十二錢

編輯者

大阪府東成郡清堀村六百六十九番屋敷
松本仁吉

發行者

大阪市東區安土町四丁目三十八番屋敷
鈴木常松

印刷者

大阪市東區本町一丁目三十番屋敷
大阪國文社々員
近藤堅三

專賣所

大阪市東區安土町四丁目十一番地
積善館

專賣所

福岡市博多中島七十六番地
積善館支店

版權登錄

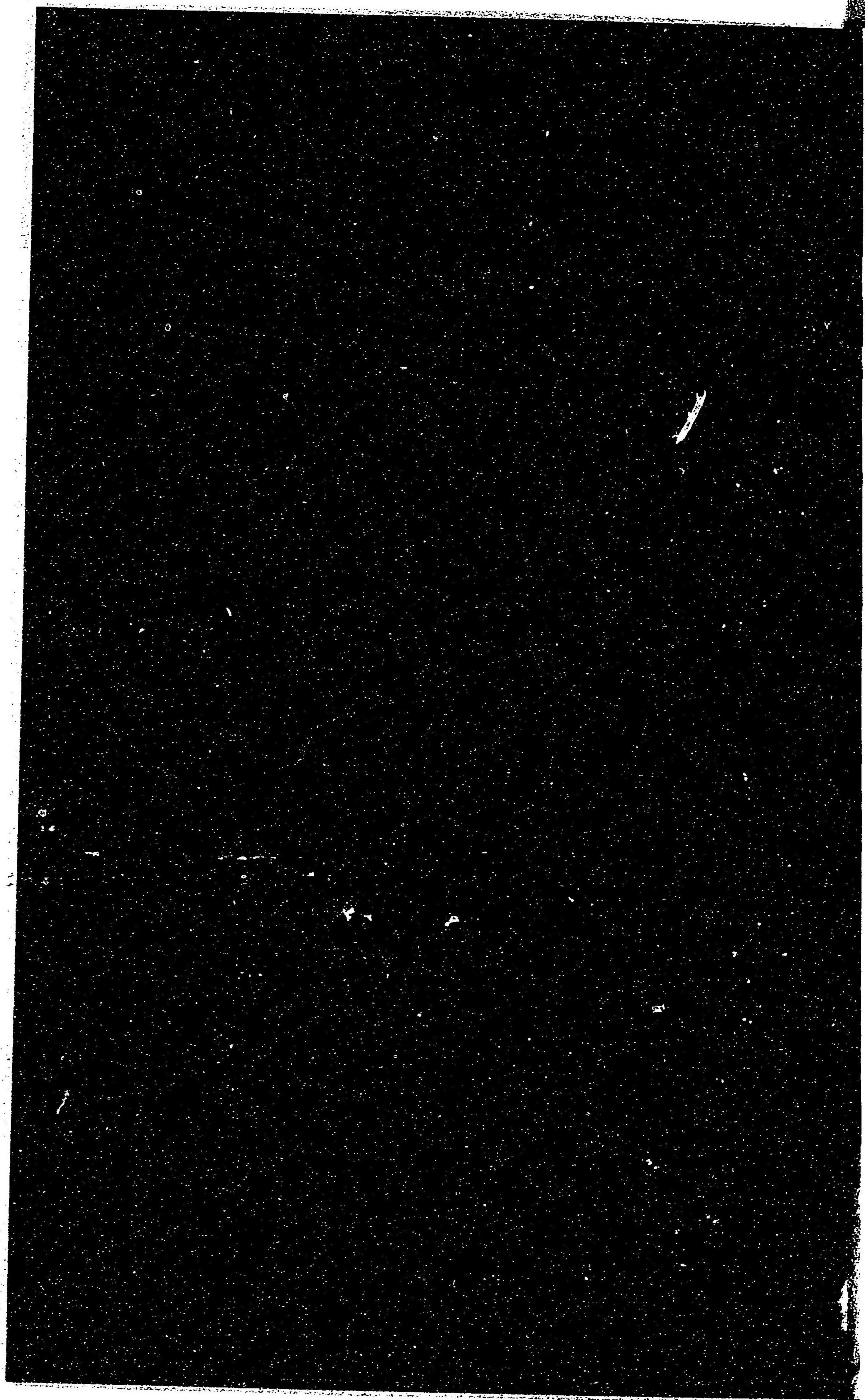


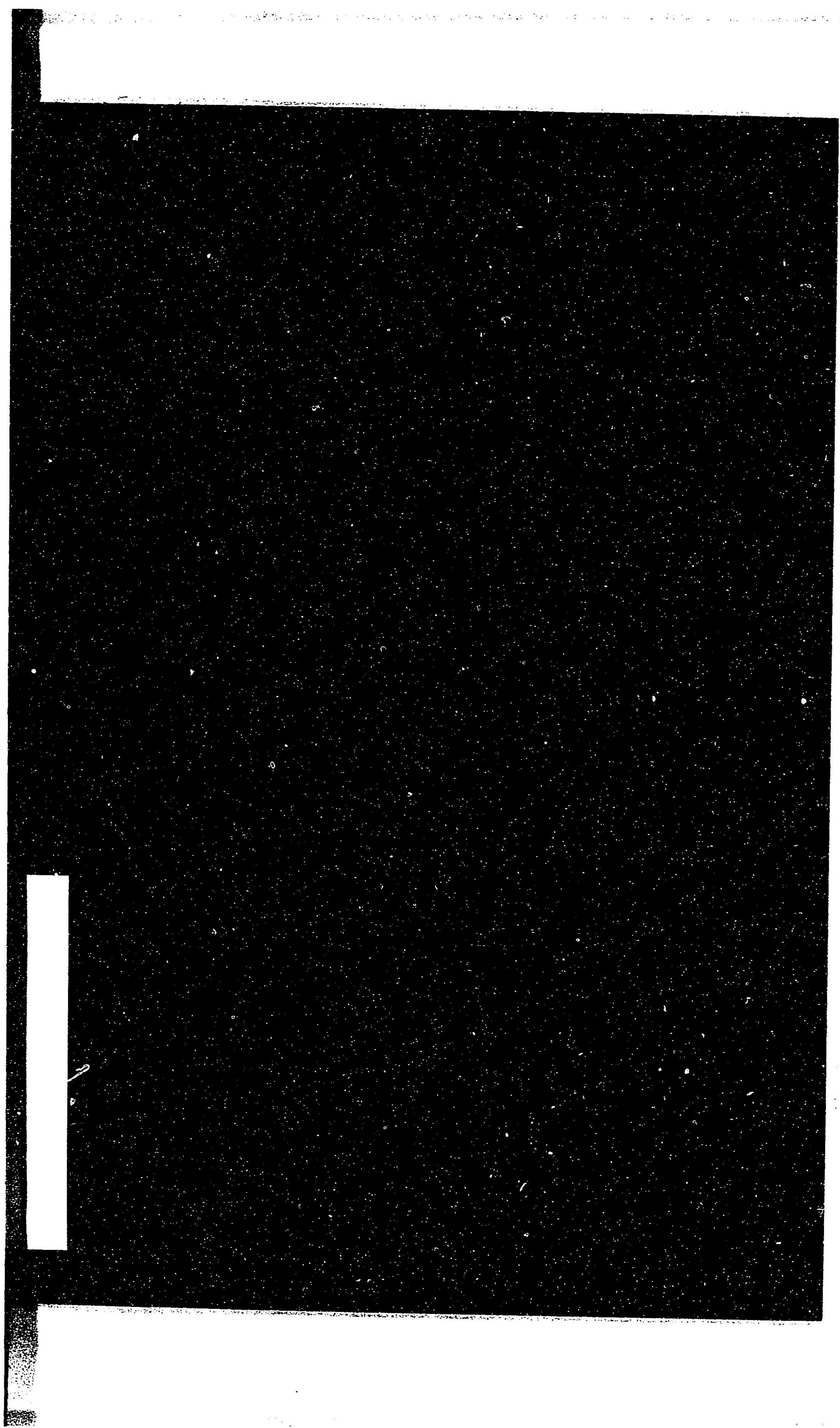
積善館新刊發兌御披露

米國理學博士小野英二郎君序 檜橋盛次郎君著

- | | | |
|-------------|--------|-------|
| ●化學試驗問題答案 | 正洋裝頗美本 | 全壹金貳錢 |
| ●物理學試驗問題答案 | 正洋裝頗美本 | 全壹金貳錢 |
| ●日本歷史試驗問題答案 | 正洋裝頗美本 | 全壹金貳錢 |
| ●日本地理試驗問題答案 | 正洋裝頗美本 | 全壹金貳錢 |
| ●博物學試驗問題答案 | 正洋裝頗美本 | 全壹金貳錢 |
| ●中等日本歷史 | 正洋裝頗美本 | 全壹金六錢 |
| ●教育日本小地誌 | 正洋裝頗美本 | 全壹金四錢 |
| ●教育萬國小歷史 | 正洋裝頗美本 | 全壹金四錢 |
| ●教育萬國小地誌 | 正洋裝頗美本 | 全壹金四錢 |







特 20

307

日本歴史試験問題答案

国立国会図書館

049632-000-3

特20-307

日本歴史試験問題答案

松本 謙堂/編

M25

BEM-0335



